

対象校No.

注4

学校コード F143310111335

注3

設置年度 令和 5年度

計画の区分： 学部設置

注1

認可

注2

尚絅大学 こども教育学部

【認可】 設置に係る設置計画履行状況報告書 (改正前大学設置基準適用)

学校法人尚絅学園
令和7年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名	大学事務部
職名・氏名	ジムフチョウ ニシヤマ ヒロキ 事務部長・西山 弘樹
電話番号	096-362-2011（内線：305）
（夜間）	同上
e-mail	kyomu@shokei-gakuen.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、当該番号を記載してください。

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html

4 対象校No.については、「【別紙】令和7年度AC報告書提出対象学科等.pdf」より、該当番号を記載してください。

目次

こども教育学部

＜こども教育学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	3
2. 授業科目の概要	8
3. 施設・設備の整備状況、経費	18
4. 既設大学等の状況	20
5. 教員組織の状況	21
6. 附帯事項等に対する履行状況等	34
7. その他全般的事項	38

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人 尚綱学園

(2) 大学名

尚綱大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒861-8538

熊本県菊池郡菊陽町武蔵ヶ丘北2丁目8番1号

(〒862-8678 熊本県熊本市中央区九品寺2丁目6番78号)

(注)・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。

・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(イケミツ フカシ) 池満 淵 (平成24年10月)	(アキオカ ヒロノブ) 秋岡 廣宣 (令和5年7月)	令和5年6月30日付辞任のため(6)
学長	(ヤマガタ ユリコ) 山縣 ゆり子 (令和2年4月)		
学部長	(ハマザキ タカシ) 浜崎 隆司 (令和5年4月)		
学科長等		(ヤノ キヨコ) (ヨシダ ミチヒロ) 矢野 潔子 吉田 道広 (令和5年4月) (令和6年4月)	学部の運営において必要のため 学科長を定めた(5) 専任教員の退職により学科長を 変更した(6)

(注)・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してくた

(例) 令和6年度に報告済の内容 → (6)

令和7年度に報告する内容 → (7)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載（昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正）するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)のほか、別ファイルにて提出してください。
 - ・様式は、令和3年度開設の4年制の学科が完成年度を越えて報告する場合(令和7年度までの5年間)ですが、設置計画履行状況等調査の対象期間が6年を越え、様式に変更が必要な場合に、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別途ご連絡ください。
 - ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「留学」の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
こども教育学部 こども教育学科 学士(教育学)	教育学・保育 学関係	4 年	70 人	2年次 0 人 3年次 5 人 4年次 0 人	290 人	-	

- (注) 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 - ・「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の2))」の「学位又は学科の分野」と同様に入力してください。
 - ・学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。(学生募集停止を予定していない場合は「-」を選択)

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		春季入学以外の 学期区分について	収容定員 充足率	収容定員 充足率 (控除後)	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期				
A 入学定員	一人 (-) [-]	一人 (-) [-]	一人 (-) [-]	一人 (-) [-]	一人 (-) [-]	一人 (-) [-]	70人 (-) [-]	一人 (-) [-]	70人 (-) [-]	一人 (-) [-]	70人 (5) [-]	一人 (-) [-]	-			
志願者数	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	27 (-) [-]	- (-) [-]	53 (-) [-]	- (-) [-]	47 (6) [-]	- (-) [-]	春季入学以外 の入学時期と 入学定員内訳	0.47倍	-	
受験者数	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	27 (-) [-]	- (-) [-]	51 (-) [-]	- (-) [-]	47 (6) [-]	- (-) [-]				
合格者数	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	27 (-) [-]	- (-) [-]	50 (-) [-]	- (-) [-]	47 (6) [-]	- (-) [-]				
B 入学者数	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	20 (-) [-]	- (-) [-]	40 (-) [-]	- (-) [-]	37 (6) [-]	- (-) [-]				
入学定員超過率 B/A	-	-	-	-	-	-	0.28	-	0.57	-	0.52	-				

- (注) 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「-」を記入してください。
 - ・()内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年度で行っている場合には、(())書きとするなど、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・転入学生は記入しないでください。
 - ・[]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。
 - ・「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 - ・報告年度に春季入学以外の学期区分の設定を予定している場合は、「春季入学以外の学期区分について」で「春季入学以外の学期区分を設ける予定」を選択するとともに、下欄に、入学時期と入学定員の内訳(予定を含む)を記載してください。(春季入学以外の学期区分の設定を予定していない場合は「-」を選択。)
 - ・「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和8年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。また、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の収容定員充足率を記載してください。
 - ・「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。
 - ・「(5) - ② 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等」の「平均入学定員超過率」及び「収容定員充足率」は、「4 既設大学等の状況」AC対象学部学科等の倍率と一致しますので、留意して計算してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1 年次	-	-	-	-	-	-	20	-	40	-	37	-	令和7年度3年次在学者数内訳 令和5年度入学者 20名 令和7年度入学者 (編入学) 6名 計26名
	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	
	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
2 年次			-	-	-	-	-	-	20	-	40	-	
			[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	
			(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
3 年次					-	-	-	-	-	-	26	-	
					[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	
					(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
4 年次							-	-	-	-	-	-	
					[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	
					(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
計	-	-	-	-	-	-	20	-	60	-	103	-	
	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	
	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	

(注)・報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

- ・ []内には、留学生の状況について、**内数**で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ ()内には、留年者の状況について、**内数**で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
令和2年度	- 人	- 人	令和2年度	- 人	- 人	
令和3年度	- 人	- 人	令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
令和4年度	- 人	- 人	令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
令和5年度	20 人	0 人	令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
			令和5年度	0 人	0 人	
令和6年度	60 人	0 人	令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
			令和5年度	0 人	0 人	
			令和6年度	0 人	0 人	
令和7年度	103 人	0 人	令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
			令和5年度	0 人	0 人	
			令和6年度	0 人	0 人	
			令和7年度	0 人	0 人	
合 計		0 人		0 人	0 人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生、転科生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例) ・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数}(a)}{\text{令和2年度の在学者数}(a+b)} = \frac{-}{\#VALUE!} = \boxed{-} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数}(a)}{\text{令和3年度の在学者数}(a+b)} = \frac{-}{\#VALUE!} = \boxed{-} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数}(a)}{\text{令和4年度の在学者数}(a+b)} = \frac{-}{\#VALUE!} = \boxed{-} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数}(a)}{\text{令和5年度の在学者数}(a+b)} = \frac{0}{20} = \boxed{0} \%$$

【令和6年度】

$$\frac{\text{令和6年度の退学者数}(a)}{\text{令和6年度の在学者数}(a+b)} = \frac{0}{60} = \boxed{0} \%$$

【令和7年度】

$$\frac{\text{令和7年度の退学者数}(a)}{\text{令和7年度の在学者数}(a+b)} = \frac{0}{103} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<こども教育学部 こども教育学科>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養教育科目	熊本学	1前	1			1	1					3
	日本伝統文化入門	1後	1									1
	小計(2科目)	—	0	2	0	1	1	0	0	0	0	4
	基礎セミナー	1前	1			1	1	1				1
	キャリアデザイン	1後	1			1	1	1				
	キャリアトレーニング	4前	1			1	1	1				
	心理学	1前		2		1						
	音楽	2前		2								1
	生命倫理	1後		2								1
	日本国憲法	1前	2									1
	異文化理解	1後		2								1
	女性と社会	1前		2								1
	子どもと環境	2前		1		1						
	人権教育	1後		2								1
	保健体育	1前	1									1
	体育実技 I	1前	1									1
	体育実技 II	2前		1		1						
	食の健康科学	1前		2								1
	日本語表現 I	1後	1									1
	日本語表現 II	2前		2								1
小計(17科目)	—	—	8	18	0	3	1	1	0	0	0	8
多文化コミュニケーション/外国語	英語 I A	1前		1								1
	英語 I B	1前		1								1
	英語 II A	1後		1								1
	英語 II B	1後		1								1
	中国語 I	1前		1								1
	韓国語 I	1前		1								1
	中国語 II	1後		1								1
	韓国語 II	1後		1								1
	海外語学研修(英語)	3後		1								1
	海外語学研修(中国語)	3後		1								1
	海外語学研修(韓国語)	3後		1								1
小計(11科目)	—	—	0	11	0	0	0	0	0	0	0	6
情報・ICT	情報処理 I	1前	1				1					
	情報処理 II	1後	1				1					
	プレゼンテーション演習	2後		1			1					
小計(3科目)	—	—	2	1	0	0	1	0	0	0	0	0
専門教育科目	教育原理	1前	2			1						
	保育者論	2後	2			1						
	教育心理学	2前	2			1						
	保育原理	1前	2									1
	保育・教育課程論	2前	2			1						
	保育ICT演習	3後		1			1					
	基礎演習 II	1後	1			1	1	1				
	保育・幼児教育研究法 I	2前	1				1					
	保育・幼児教育研究法 II	2後	1				1					
	保育・幼児教育研究 I	3前	1			4	3	1				
	保育・幼児教育研究 II	3後	1			4	3	1				
	保育・幼児教育研究 III	4前	1			4	3	1				
	保育・幼児教育研究 IV	4後	1			4	3	1				
	卒業研究・卒業論文	4後	1			4	3	1				
小計(14科目)	—	—	18	1	0	6	5	1	0	0	0	1

【令和7年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養教育科目	熊本学(未開講)	1前		1			1	1					3
	日本伝統文化入門	1後		1									1
	教壇・データサイエンス・AI入門	1後		1				1					
	小計(3科目)	—	—	0	3	0	1	2	0	0	0	0	4
	基礎セミナー	1前	1			1	1	1					1
	キャリアデザイン	1後	1			1	1	1					
	キャリアトレーニング	4前	1			1	1	1					
	心理学	1前		2		1							
	音楽	2前		2									1
	生命倫理	1後		2									1
	日本国憲法	1前	2										1
	異文化理解	1後		2									1
	女性と社会	1前		2									1
	子どもと環境	2前		1					1				
	人権教育	1後		2									1
	保健体育	1前	1										1
	体育実技 I	1前	1										1
	体育実技 II	2前		1				1					
	食の健康科学	1前		2									1
	日本語表現 I	1後	1										1
日本語表現 II	2前		2									1	
小計(17科目)	—	—	8	18	0	2	1	2	0	0	0	7	
多文化コミュニケーション/外国語	英語 I A	1前		1									1
	英語 I B	1前		1									1
	英語 II A	1後		1									1
	英語 II B	1後		1									1
	中国語 I	1前		1									1
	韓国語 I	1前		1									1
	中国語 II	1後		1									1
	韓国語 II	1後		1									1
	海外語学研修(英語)	3後		1									1
	海外語学研修(中国語)	3後		1									1
	海外語学研修(韓国語)	3後		1									1
小計(11科目)	—	—	0	11	0	0	0	0	0	0	0	6	
情報・ICT	情報処理 I	1前	1				1						
	情報処理 II	1後	1				1						
	プレゼンテーション演習	2後		1			1						
小計(3科目)	—	—	2	1	0	0	1	0	0	0	0	0	
専門教育科目	教育原理	1前	2										1
	保育者論	2後	2										1
	教育心理学	2前	2						1				
	保育原理	1前	2										1
	保育・教育課程論	2前	2										1
	保育ICT演習	3後		1									
	基礎演習 II	1後	1				1			2	1		
	保育・幼児教育研究法 I	2前	1				1						
	保育・幼児教育研究法 II	2後	1				1						
	保育・幼児教育研究 I	3前	1				4	3	1		7	3	
	保育・幼児教育研究 II	3後	1				4	3	1		7	3	
	保育・幼児教育研究 III	4前	1				4	3	1		7	3	
	保育・幼児教育研究 IV	4後	1				4	3	1		7	3	
	卒業研究・卒業論文	4後	1				4	3	1		7	3	
小計(14科目)	—	—	18	1	0	4	7	3	0	0	0	1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	保育内容総論	1前	1			1						
	保育内容-健康	1前	1			1						
	保育内容-人間関係	2後	1			1						
	保育内容-環境	1後	1			1						
	保育内容-言葉	1前	1			1						
	保育内容-音楽表現	2前	1			1						
	保育内容-造形表現	2前	1			1						
	健康の指導法	1後	2			1						
	人間関係の指導法	3前	2			1						
	環境の指導法	2前	2			1						
	言葉の指導法	1後	2			1						
	表現(音楽)の指導法	2後	1			1						
	表現(造形)の指導法	2後	1			1						
	複合領域の指導法Ⅰ	3後	2			1	2					
	複合領域の指導法Ⅱ	4前	2			1	2					
	教育方法論Ⅰ	2後	2			1						
	教育方法論Ⅱ	3前	1			1						
	幼児理解	2後	1			1						
	教育相談	3前	2			1						
	音楽基礎	1前	1								1	
	器楽Ⅰ	1後	1			1					9	
	器楽Ⅱ	2前	1			1					9	
	器楽Ⅲ	2後	1			1					9	
	器楽Ⅳ	3前	1			1					9	
	食育論	3後	2								1	
	子どもの保健	1後	2			1						1
	子どもの食と栄養	3前	2								1	
	身体表現	2後	1			1						
	乳児保育Ⅰ	2前	2			1						
	乳児保育Ⅱ	2後	1			1						
	子どもの健康と安全	2後	1			1						1
	基礎演習Ⅰ	1前	1			1	1	1				
	教育実習Ⅰ	2後	1			1	2					
	教育実習Ⅱ	4前	3			1	1					
	教育実習指導Ⅰ	2通	1			1	2					
	教育実習指導Ⅱ	4前	1			1	1					
	保育実習ⅠA	2後	2			1	3					
	保育実習ⅠB	3前	2			2	1					
	保育実習指導ⅠA	2後	1			1	3					
	保育実習指導ⅠB	3前	1			3						
	保育実習Ⅱ	3後	2			1	2					
	保育実習Ⅲ	3後	2			3						
	保育実習指導Ⅱ	3後	1			1	2					
	保育実習指導Ⅲ	3後	1			3						
	保育・教職実践演習	4後	2			1	1					
小計(45科目)	—	—	25	39	0	4	7	1	0	0	11	
子育て支援	子ども家庭福祉	1後		2		1						
	子ども家庭支援の心理学	1後		2		1						
	子ども家庭支援論	3前		2		1					1	
	子育て支援	3後		1		1					1	
	小計(4科目)	—	—	0	7	0	1	1	0	0	0	0
教育・保育の連携・協働	教育社会学	3前	2								1	
	社会福祉	1前	2			1						
	社会的養護Ⅰ	2前		2		1						
	社会的養護Ⅱ	3前		1		1						
	保育マネジメント論	4前		2		1						
	保育における連携・接続	3後		2		1					1	
	保育ソーシャルワーク実践演習	4前		1		1						
小計(7科目)	—	—	4	8	0	2	1	0	0	0	1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	保育内容総論	1前	1			1						
	保育内容-健康	1前	1			1						
	保育内容-人間関係	2後	1			1						
	保育内容-環境	1後	1			1				1		
	保育内容-言葉	1前	1			1						
	保育内容-音楽表現	2前	1			1						
	保育内容-造形表現	2前	1			1						
	健康の指導法	1後	2			1						
	人間関係の指導法	3前	2			1						
	環境の指導法	2前	2			1					1	
	言葉の指導法	1後	2			1						
	表現(音楽)の指導法	2後	1			1						
	表現(造形)の指導法	2後	1			1						
	複合領域の指導法Ⅰ	3後	2			2						
	複合領域の指導法Ⅱ	4前	2			2						
	教育方法論Ⅰ	2後	2			1					1	
	教育方法論Ⅱ	3前	1			1						
	幼児理解	2後	1			1			1			
	教育相談	3前	2			1						
	音楽基礎	1前	1									1
	器楽Ⅰ	1後	1			1					1	9
	器楽Ⅱ	2前	1			1					1	9
	器楽Ⅲ	2後	1			1					1	9
	器楽Ⅳ	3前	1			1					1	9
	食育論	3後	2									1
	子どもの保健	1後	2									1
	子どもの食と栄養	3前	2									1
	身体表現	2後	1			1						
	乳児保育Ⅰ	2前	2			1					1	
	乳児保育Ⅱ	2後	1			1					1	
	子どもの健康と安全	2後	1			1						1
	基礎演習Ⅰ	1前	1			1	1	1				
	教育実習Ⅰ	2後	1			1	2					
	教育実習Ⅱ	4前	3			1	1					
	教育実習指導Ⅰ	2通	1			1	2					
	教育実習指導Ⅱ	4前	1			1	1					
	保育実習ⅠA	2後	2			1	3					
	保育実習ⅠB	3前	2			2	1					
	保育実習指導ⅠA	2後	1			1	3					
	保育実習指導ⅠB	3前	1			3						
	保育実習Ⅱ	3後	2			1	2					
	保育実習Ⅲ	3後	2			3						
	保育実習指導Ⅱ	3後	1			1	2					
	保育実習指導Ⅲ	3後	1			3						
	保育・教職実践演習	4後	2			1	1					
小計(45科目)	—	—	25	39	0	2	7	4	0	0	11	
子育て支援	子ども家庭福祉	1後		2		1						
	子ども家庭支援の心理学	1後		2		1						
	子ども家庭支援論	3前		2		1					1	
	子育て支援	3後		1		1					1	
	小計(4科目)	—	—	0	7	0	1	1	1	0	0	0
教育・保育の連携・協働	教育社会学	3前	2								1	
	社会福祉	1前	2			1						
	社会的養護Ⅰ	2前		2		1						
	社会的養護Ⅱ	3前		1		1						
	保育マネジメント論	4前		2		1						
	保育における連携・接続	3後		2		1					1	
	保育ソーシャルワーク実践演習	4前		1		1						
小計(7科目)	—	—	4	8	0	1	1	1	0	0	1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	特別支援教育概論(障害児保育を含む)	1前	2			1	1					
	療育論	3前	2				2					
	療育論演習	3後		1			2					
	障害児教育総論	1前	2			1						
	知的障害児の心理・生理・病理	1後	2									2
	肢体不自由児の心理・生理・病理	2前		2								2
	病弱児の心理・生理・病理	1後		2				1				
	知的障害児教育論	2前		2		1	1					
	肢体不自由児教育論	2後		2		1						
	病弱児教育論	2前		2				1				
	特別支援教育コーディネーター論	3後		2		1						
	知的障害児の言語指導	2後		2		1						
	障害児教育課程論	3前		2		1						
	重複/発達障害児教育総論	3前		2		1						
	視覚障害児教育総論	3後		2		1						
	聴覚障害児教育総論	3後		2		1						
	特別支援学校教育実習	4後		2		2	1					
	特別支援学校教育実習指導	4通		1		2	1					
小計(18科目)	-		10	24	0	2	2	1	0	0	0	3
合計(121科目)	-		67	111	0	6	7	1	0	0	0	32
卒業要件及び履修方法												
・必修科目をすべて修得し、教養教育科目20単位、専門教育科目104単位以上を修得すること。												

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	特別支援教育概論(障害児保育を含む)	1前	2									
	療育論	3前	2									
	療育論演習	3後		1								
	障害児教育総論	1前	2									
	知的障害児の心理・生理・病理	1後	2									2
	肢体不自由児の心理・生理・病理	2前		2								2
	病弱児の心理・生理・病理	1後		2						1		
	知的障害児教育論	2前		2		1	1					
	肢体不自由児教育論	2後		2		1						1
	病弱児教育論	2前		2					1			
	特別支援教育コーディネーター論	3後		2		1						
	知的障害児の言語指導	2後		2		1						
	障害児教育課程論	3前		2		1						
	重複/発達障害児教育総論	3前		2		1						
	視覚障害児教育総論	3後		2		1						
	聴覚障害児教育総論	3後		2		1						
	特別支援学校教育実習	4後		2		2	1					
	特別支援学校教育実習指導	4通		1		2	1					
小計(18科目)	-		10	24	0	2	2	1	0	0	0	5
合計(122科目)	-		67	112	0	4	7	4	0	0	0	32
卒業要件及び履修方法												
・必修科目をすべて修得し、教養教育科目20単位、専門教育科目104単位以上を修得すること。												

【令和6年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
全学共通科目	熊本学(未開講)	1前		1		1	1					3	
	日本伝統文化入門(未開講)	1後		1								1	
	数理・データサイエンス・AI入門	1後		1			1					1	
	小計(3科目)	—	0	3	0	1	2	0	0	0	0	4	
	教養基礎	基礎セミナー	1前	1			1	1	1				1
		キャリアデザイン	1後	1			1	1	1				1
		キャリアトレーニング	4前	1			1	1	1				1
		心理学	1前		2		1						1
		音楽	2前		2								1
		生命倫理(未開講)	1後		2								1
		日本国憲法	1前	2									1
		異文化理解	1後		2								1
		女性と社会	1前		2								1
		子どもと環境	2後		1			1					1
		人権教育	1後		2								1
		保健体育	1前	1									1
		体育実技 I	1前	1			1						1
体育実技 II		2前		1		1						1	
食の健康科学	1前		2								1		
日本語表現 I	1後	1									1		
日本語表現 II	2前		2								1		
小計(17科目)	—	8	18	0	2	1	2	0	0	0	8		
多文化コミュニケーション/外国語	英語 I A	1前		1								1	
	英語 I B	1前		1								1	
	英語 II A	1後		1								1	
	英語 II B	1後		1								1	
	中国語 I	1前		1								1	
	韓国語 I	1前		1								1	
	中国語 II	1後		1								1	
	韓国語 II	1後		1								1	
	海外語学研修(英語)	3後		1								1	
	海外語学研修(中国語)	3後		1								1	
	海外語学研修(韓国語)	3後		1								1	
小計(11科目)	—	0	11	0	0	0	0	0	0	0	6		
情報・ICT	情報処理 I	1前	1				1					1	
	情報処理 II	1後	1				1					1	
	プレゼンテーション演習	2後		1			1					1	
	小計(3科目)	—	2	1	0	0	1	0	0	0	0	0	
専門教育科目	教育原理	1前	2					1				1	
	保育者論	2後	2					1				1	
	教育心理学	2前	2			1						1	
	保育原理	1前	2									1	
	保育・教育課程論	2前	2					1				1	
	保育ICT演習	3後		1			1					1	
	基礎演習 II	1後	1				2	1				1	
	保育・幼児教育研究法 I	2前	1				1					1	
	保育・幼児教育研究法 II	2後	1				1					1	
	保育・幼児教育研究 I	3前	1			4	7	3				1	
	保育・幼児教育研究 II	3後	1			4	7	3				1	
	保育・幼児教育研究 III	4前	1			4	7	3				1	
	保育・幼児教育研究 IV	4後	1			4	7	3				1	
	卒業研究・卒業論文	4後	1			4	7	3				1	
小計(14科目)	—	18	1	0	4	7	3	0	0	0	1		
専門教育科目	保育内容総論	1前	1			1						1	
	保育内容-健康	1前	1			1						1	
	保育内容-人間関係	2後	1			1						1	
	保育内容-環境	1後	1					1				1	
	保育内容-言葉	1前	1				1					1	
	保育内容-音楽表現	2前	1				1					1	
	保育内容-造形表現	2前	1				1					1	
	健康の指導法	1後	2			1						1	
	人間関係の指導法	3前	2			1						1	
	環境の指導法	2前	2					1				1	
	言葉の指導法	1後	2				1					1	
	表現(音楽)の指導法	2後	1				1					1	
	表現(造形)の指導法	2後	1				1					1	
	複合領域の指導法 I	3後		2			2					2	
複合領域の指導法 II	4前		2			2					2		

【令和5年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
全学共通科目	熊本学(未開講)	1前		1		1	1					3	
	日本伝統文化入門(未開講)	1後		1								1	
	数理・データサイエンス・AI入門(未開講)	1後		1			1					1	
	小計(3科目)	—	0	3	0	1	1	0	0	0	0	5	
	教養基礎	基礎セミナー	1前	1			1	1	1				1
		キャリアデザイン	1後	1			1	1	1				1
		キャリアトレーニング	4前	1			1	1	1				1
		心理学	1前		2		1						1
		音楽	2前		2								1
		生命倫理(未開講)	1後		2								1
		日本国憲法	1前	2									1
		異文化理解	1後		2								1
		女性と社会	1前		2								1
		子どもと環境	2前		1			1					1
		人権教育	1後		2								1
		保健体育	1前	1									1
		体育実技 I	1前	1			1						1
体育実技 II		2前		1		1						1	
食の健康科学	1前		2								1		
日本語表現 I	1後	1									1		
日本語表現 II	2前		2								1		
小計(17科目)	—	8	18	0	2	1	1	0	0	0	8		
多文化コミュニケーション/外国語	英語 I A	1前		1								1	
	英語 I B	1前		1								1	
	英語 II A	1後		1								1	
	英語 II B	1後		1								1	
	中国語 I	1前		1								1	
	韓国語 I	1前		1								1	
	中国語 II	1後		1								1	
	韓国語 II	1後		1								1	
	海外語学研修(英語)	3後		1								1	
	海外語学研修(中国語)	3後		1								1	
	海外語学研修(韓国語)	3後		1								1	
小計(11科目)	—	0	11	0	0	0	0	0	0	0	5		
情報・ICT	情報処理 I	1前	1				1					1	
	情報処理 II	1後	1				1					1	
	プレゼンテーション演習	2後		1			1					1	
	小計(3科目)	—	2	1	0	0	1	0	0	0	0	0	
専門教育科目	教育原理	1後	2					1				1	
	保育者論	2後	2					1				1	
	教育心理学	2前	2			1						1	
	保育原理	1前	2									1	
	保育・教育課程論	2前	2					1				1	
	保育ICT演習	3後		1			1					1	
	基礎演習 II	1後	1				2	1				1	
	保育・幼児教育研究法 I	2前	1				1					1	
	保育・幼児教育研究法 II	2後	1				1					1	
	保育・幼児教育研究 I	3前	1			4	7	3				1	
	保育・幼児教育研究 II	3後	1			4	7	3				1	
	保育・幼児教育研究 III	4前	1			4	7	3				1	
	保育・幼児教育研究 IV	4後	1			4	7	3				1	
	卒業研究・卒業論文	4後	1			4	7	3				1	
小計(14科目)	—	18	1	0	5	5	2	0	0	0	1		
専門教育科目	保育内容総論	1前	1			1						1	
	保育内容-健康	1前	1			1						1	
	保育内容-人間関係	2後	1			1						1	
	保育内容-環境	1後	1					1				1	
	保育内容-言葉	1前	1				1					1	
	保育内容-音楽表現	2前	1				1					1	
	保育内容-造形表現	2前	1				1					1	
	健康の指導法	1後	2			1						1	
	人間関係の指導法	3前	2			1						1	
	環境の指導法	2前	2					1				1	
	言葉の指導法	1後	2				1					1	
	表現(音楽)の指導法	2後	1				1					1	
	表現(造形)の指導法	2後	1				1					1	
	複合領域の指導法 I	3後		2			2					2	
複合領域の指導法 II	4前		2			2					2		

(注)・報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

- ・認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教育課程等の概要」を確認してください。
- ・「認可時又は届出時」には設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字の赤字**としてください。
- ・履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
- ・1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
- ・不要な年度(令和6年度開設であれば令和5年度以前)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
- ・専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。
- ・指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、旧カリキュラムについても記載してください。その場合は、新カリキュラムを全て記載したのち、最後に記載欄を追加し、年度ごとに記載してください。新旧がある年度については、その別がわかるように各年度の右側に(新)又は(旧)と追記してください。(例:記載順)【認可時又は届出時】→【令和7年度(新)】→【令和6年度(新)】→【令和5年度】→【令和4年度】→【令和7年度(旧)】→【令和6年度(旧)】

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和5年度】

- ・教育効果向上の理由により、全学共通科目として、「数理・データサイエンス・AI入門」を新規開設。配当年次を「1後」、単位数を「選択・1」兼任・兼任教員を「1」と設定。また、全学共通科目が2科目から3科目、全科目数が121科目から122科目に変更。選択科目として開講するため、全学共通科目の選択単位数が2単位から3単位に変更。全選択科目の単位数111単位から112単位に変更。
- ・担当教員の就任辞退の理由により、令和5年度の「教育原理」の配当年次を「1前」から「1後」に変更。
- ・担当教員の就任辞退及び担当教員の変更により、「教育原理」の専任教員等の配置を「教授1」から「准教授1」に変更。
- ・担当教員の就任辞退及び新規採用に伴い、「保育者論」の専任教員等の配置を「教授1」から「講師1」に変更。
- ・担当教員の就任辞退及び新規採用に伴い、「保育・教育課程論」の専任教員等の配置を「教授1」から「講師1」に変更。
- ・担当教員の就任辞退の理由及び担当教員の変更により、「基礎演習Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授1、准教授1、講師1」から「准教授2、講師1」に変更。
- ・担当教員の新規採用に伴い、「保育・幼児教育研究Ⅰ」、「保育・幼児教育研究Ⅱ」、「保育・幼児教育研究Ⅲ」、「保育・幼児教育研究Ⅳ」及び「卒業研究・卒業論文」の専任教員等の配置を「教授4、准教授3、講師1」から「教授4、准教授3、講師2」に変更。
- ・担当教員の就任辞退及び担当教員の変更により、「保育内容一環境」の専任教員等の配置を「教授1」から「准教授1」に変更。
- ・担当教員の就任辞退及び担当教員の変更により、「環境の指導法」の専任教員等の配置を「教授1」から「准教授1」に変更。
- ・担当教員の就任辞退及び新規採用に伴い、「教育方法論Ⅰ」の専任教員等の配置を「教授1」から「講師1」に変更。
- ・担当教員の就任辞退の理由により、令和5年度の「基礎演習Ⅰ」の配当年次を「1前」から「1後」に変更。
- ・担当教員の就任辞退及び担当教員の変更により、「基礎演習Ⅰ」の専任教員等の配置を「教授1、准教授1、講師1」から「准教授2、講師1」に変更。
- ・担当教員の就任辞退及び新規採用に伴い、「教育実習Ⅰ」の専任教員等の配置を「教授1、准教授2」から「准教授2、講師1」に変更。
- ・担当教員の就任辞退、新規採用及び教育効果向上の理由により、「教育実習Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授1、准教授1」から「准教授2、講師1」に変更。
- ・担当教員の就任辞退及び新規採用に伴い、「教育実習指導Ⅰ」の専任教員等の配置を「教授1、准教授2」から「准教授2、講師1」に変更。
- ・担当教員の就任辞退、新規採用及び教育効果向上の理由により、「教育実習指導Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授1、准教授1」から「准教授2、講師1」に変更。
- ・担当教員の就任辞退、新規採用及び教育効果向上の理由により、「保育・教職実践演習」の専任教員等の配置を「教授1、准教授1」から「准教授2、講師1」に変更。
- ・担当教員の就任辞退及び新規採用に伴い「保育における連携・接続」の専任教員等の配置を「教授1」から「講師1」に変更。
- ・教育効果向上の理由により、「特別支援教育概論(障害児保育を含む)」の専任教員等の配置を「教授1、准教授1」から「教授2、准教授1」に変更。
- ・教育効果向上の理由により、「肢体不自由児教育論」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授1、兼任・兼任1」に変更。
- ・担当教員の就任辞退の理由により、教授の総数が6名から5名に変更。
- ・担当教員の新規採用の理由により、講師の総数が1名から2名に変更。
- ・兼任・兼任教員の追加により、兼任・兼任の総数が32名から35名に変更。

【令和6年度】

- ・教育効果向上の理由の理由により、「数理・データサイエンス・AI入門」の担当を「兼任・兼任1」から「准教授1」に変更。
- ・担当教員の就任辞退及び追加の理由により、「子どもと環境」専任教員等の配置を「教授1」から「講師1」に変更。
- ・担当教員の就任辞退及び追加の理由により、令和6年度の「子どもと環境」の配当年次を「2前」から「2後」に変更。
- ・教育原理の配当年次を「1年後期」から、認可時と同じ「1年前期」に変更。
- ・担当教員の変更の理由により、「教育原理」の専任教員等の配置を「准教授1」から「講師1」に変更。
- ・担当教員の追加の理由により、「保育・幼児教育研究Ⅰ」「保育・幼児教育研究Ⅱ」「保育・幼児教育研究Ⅲ」「保育・幼児教育研究Ⅳ」「卒業研究・卒業論文」の担当者を「教授4、准教授3、講師2」から「教授4、准教授7、講師3」に変更。
- ・担当教員の変更の理由により、「子どもの保健」、「子どもの健康と安全」の専任教員などの配置を「教授1」から「兼任・兼任1」に変更。
- ・「子どもの食と栄養」兼任教員の就任辞退。候補者選考中。
- ・専任教員退職及び新規採用の理由により、「乳児保育Ⅰ」「乳児保育Ⅱ」の担当を「教授1」から「講師1」に変更。
- ・「基礎演習Ⅰ」の配当年次を「1年後期」から認可時と同じ「1年前期」に変更。
- ・専任教員の退職及び新規採用の理由により、「保育実習ⅠA」の専任教員等の配置を「教授1、准教授3」から「准教授3、講師1」に変更。
- ・担当教員の追加の理由により、「保育実習ⅠB」の専任教員等の配置を「准教授2、講師1」から「准教授2、講師2」に変更。
- ・担当教員の退職及び新規採用の理由により、「保育実習指導ⅠA」の専任教員等の配置を「教授1、准教授3」から「准教授3、講師1」に変更。
- ・担当教員の追加の理由により、「保育実習指導ⅠB」の専任教員等の配置を「准教授2、講師1」から「准教授2、講師2」に変更。
- ・専任教員の退職及び新規採用に伴い、「保育実習Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授1、准教授2」から「准教授2、講師1」に変更。
- ・担当教員の変更の理由により、「保育実習Ⅲ」の専任教員等の配置を「准教授3」から「准教授2、講師1」に変更。
- ・専任教員の退職及び新規採用に伴い、「保育実習指導Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授1、准教授3」から「准教授2、講師1」に変更。
- ・担当教員の変更の理由により、「保育実習指導Ⅲ」の専任教員等の配置を「准教授3」から「准教授2、講師1」に変更。
- ・担当教員の変更の理由により、「子ども家庭支援論」、「子育て支援」の専任教員等の配置を「准教授1」から「講師1」に変更。

- ・教育効果向上の理由により、「障害児教育総論」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授2」に変更。
- ・「障害児教育総論」の開講時期を「1前」から「1後」に変更。
- ・専任教員の退職の理由により、教授の総数が5名から4名に変更。
- ・専任教員の採用の理由により、講師の総数が2名から4名に変更。
- ・「保健体育」「体育実技Ⅰ」兼任教員の退職。専任教員に変更予定であり、令和7年度第1回AC教員審査受審中
- ・兼任・兼任教員の退職及び就任辞退の理由により、総数が35名から33名に変更。

【令和7年度】

- ・「子どもと環境」の開講時期について、認可時と同じ「2年前期」に変更。
- ・「子どもの食と栄養」の専任教員等の配置を認可時と同じ「兼任・兼任1」とした。
- ・「障害児教育総論」の開講時期について、認可時と同じ「1年前期」に変更。
- ・兼任教員の退職に伴い、専任教員等の配置を「兼任・兼任33」から認可時と同じ「兼任・兼任32」に変更。

- (注)・ 2(1) - ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（令和6年度開設であれば令和5年度以前）の表は適宜削除してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧の変更内容をそれぞれ1つの枠内に記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
47 科目	74 科目	0 科目	121 科目	47 科目 []	75 科目 [+1]	0 科目 []	122 科目 [+1]	

- (注)・未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)
 ・指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「変更状況」には変更後のカリキュラム（新カリキュラム）の授業科目数及び設置時の計画からの増減を記入するとともに、「備考」に変更前のカリキュラム（旧カリキュラム）の授業科目数と設置時の計画からの増減を記入してください。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注)・配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。
 なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注)・設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。
 なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・該当がない場合は「廃止の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注)・授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、
 学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{121} = \boxed{0} \%$$

(注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
	校 舎 敷 地	38,943㎡	5,700㎡	53,080㎡	97,723㎡				
	運 動 場 用 地	0㎡	3,250㎡	12,549㎡	15,799㎡				
	小 計	38,943㎡	8,950㎡	65,629㎡	113,522㎡				
	そ の 他	0㎡	492㎡	20,623㎡	21,115㎡				
	合 計	38,943㎡	9,442㎡	86,252㎡	134,637㎡				
(2) 校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
		7,863㎡ (7,863 ㎡)	28,607㎡ (28,607 ㎡)	11,939㎡ (11,939 ㎡)	48,409㎡ (48,409 ㎡)				
(3) 教 室 等		講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設			
		39室	89室	23室	5室 (補助職員 2— 0人)	0室 (補助職員 0 人)	人員配置の見直しのため (6)		
(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称		室 数		令和7年3月専任講師1名 を新規採用のため (7)			
		こども教育学部 こども教育学科		14 15 室					
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	新規購入と計画的除籍 を実施した (6) (7)	
	こども教育学部	253,205 [18,624] 253,812 [19,163] 259,320 [17,034] (247,805 [18,544]) (244,842 [18,503]) (242,185 [18,288]) (247,320 [16,434])	2,526 [82] 2,531 [82] 2,482 [80] 2,454 [71] (2,526 [82]) (2,531 [82]) (2,470 [78]) (2,442 [69])	8 [0] 4 [- 1] (8 [0])) (2 [- 0])) (4 [- 1]))	6,772 6,737 6,477 (6,612) (6,542) (6,415) (6,077)	9 1 3 (9) (0) (3)	0 (0)		
	計	253,205 [18,624] 253,812 [19,163] 259,320 [17,034] (247,805 [18,544]) (244,842 [18,503]) (242,185 [18,288]) (247,320 [16,434])	2,526 [82] 2,531 [82] 2,482 [80] 2,454 [71] (2,526 [82]) (2,531 [82]) (2,470 [78]) (2,442 [69])	8 [0] 4 [- 1] (8 [0])) (2 [- 0])) (4 [- 1]))	6,772 6,737 6,477 (6,612) (6,542) (6,415) (6,077)	9 1 3 (9) (0) (3)	0 (0)		
		253,205 [18,624] 253,812 [19,163] 259,320 [17,034] (247,805 [18,544]) (244,842 [18,503]) (242,185 [18,288]) (247,320 [16,434])	2,526 [82] 2,531 [82] 2,482 [80] 2,454 [71] (2,526 [82]) (2,531 [82]) (2,470 [78]) (2,442 [69])	8 [0] 4 [- 1] (8 [0])) (2 [- 0])) (4 [- 1]))	6,772 6,737 6,477 (6,612) (6,542) (6,415) (6,077)	9 1 3 (9) (0) (3)	0 (0)		
(6) 図 書 館		面 積		閱 覧 座 席 数	収 納 可 能 冊 数				
		2,075㎡		182	278,000冊				
(7) 体 育 館		面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要					
		2,472㎡		トラック1面					
(8) 経費の見積り及び 維持方法の概要	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	図書費には電子ジャー ナル・データベースの 整備費（運用コスト含 む）を含む。	
	経費の見積り	教員1人当り研究費等	100千円	100千円	図書購入費	5,000千円	2,500千円		0千円
		共同研究費等	0千円	0千円	設備購入費	105,100千円	2,000千円		0千円
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
	1,110千円	890千円	890千円	890千円	— 千円	— 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、手数料収入、雑収入 等							

- (注)・設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。
(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には報告年度の5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(6)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学の名称	尚 綱 大 学						収容定員充足率0.7倍以下の学科数	2	収容定員充足率1.15倍以上の学科数	0	
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	備考
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度		
現代文化学部	4	75	-	300	-	0.56	-	-	平成30	-	
文化コミュニケーション学科	4	75	-	300	学士(文学)	0.56	-	-	平成30	熊本県熊本市中央区九品寺2丁目6番78号	
生活科学部	4	70	3年次10	300	-	0.89	-	-	平成18	-	
栄養科学科	4	70	3年次10	300	学士(栄養学)	0.89	-	-	平成18	熊本県熊本市中央区九品寺2丁目6番78号	
こども教育学部	4	70	3年次5	290	-	0.47	-	-	令和5	-	
こども教育学科	4	70	3年次5	290	学士(教育学)	0.47	-	-	令和5	熊本県菊池郡隈町武蔵ヶ丘北2丁目8番1号	
大学全体	4	215	3年次15	890	-	-	-	-	-	-	

(注)・本調査の対象となっている大学、短期大学及び高等専門学校（以下「大学等」という。）について、既に設置している学部等（短期大学、高等専門学校にあっては学科等）の報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。（大学院、専攻科及び別科を除く）。
 なお、本調査の対象となっている大学等の設置者が設置している他の大学等の状況については、記入する必要はありません。
 ・記載項目以外、保護をかけています。不要な行は、「非表示」設定としてください。また、記載する必要がない学校種の記載欄については、「収容定員充足率」が0.7倍以下又は1.15倍以上の学科数を記入する項目を「-」とした上で、「非表示」設定としてください。
 ・学部の学科等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
 ※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。
 履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 ・本年度ACの対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 ・「収容定員充足率」には、報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。
 開設後、完成年度を迎えていない学科等については、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記載してください。
 算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引（令和8年度開設用）IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
 ・「収容定員充足率（控除後）」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。
 なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。
 ・「収容定員充足率（控除後含む）」は、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 また、0.7倍以下又は1.15倍以上の学科については、必ず太字にしてください。当該設定は、学科のみとし、学部及び専攻を太字にする必要はありません。
 ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。
 ・「所在地」及び「備考」欄については、セルの結合ではなく、書式設定より設定の上、文字サイズ変更を行ってください。
 詳しくは、本シート右に記載のコメント機能で操作方法を案内していますのでご参照ください。

5 教員組織の状況

<こども教育学部 こども教育学科>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

【令和5年度】

【令和6年度】

【令和7年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)	氏名 (年齢)	氏名 (年齢)	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月> 保有学位等	<就任(予定)年月> 保有学位等	<就任(予定)年月> 保有学位等	<就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名	担当授業科目名	担当授業科目名	担当授業科目名
専任	教授(学部長)	浜崎隆司 (66)(高) <令和5年4月> 博士(教育学)	浜崎隆司 (67)(高) <令和5年4月> 博士(教育学)	浜崎隆司 (68)(高) <令和5年4月> 博士(教育学)	浜崎隆司 (69)(高) <令和5年4月> 博士(教育学)
		熊本学※ 心理学 教育心理学 保育内容-人間関係 人間関係の指導法 幼児理解 子ども家庭支援の心理学	熊本学※ 心理学 教育心理学 保育内容-人間関係 人間関係の指導法 幼児理解 子ども家庭支援の心理学	熊本学※ 心理学 教育心理学 保育内容-人間関係 人間関係の指導法 幼児理解 子ども家庭支援の心理学	熊本学※ 心理学 教育心理学 保育内容-人間関係 人間関係の指導法 幼児理解 子ども家庭支援の心理学
専任	教授	矢野潔子 (51) <令和5年4月> 博士(教育学)	矢野潔子 (52) <令和5年4月> 博士(教育学)		
		保育・幼児教育研究Ⅰ 保育・幼児教育研究Ⅱ 保育・幼児教育研究Ⅲ 保育・幼児教育研究Ⅳ 卒業研究・卒業論文 子どもの保健 乳児保育Ⅰ 乳児保育Ⅱ 子どもの健康と安全 保育実習ⅠA 保育実習指導ⅠA 保育実習Ⅱ 保育実習指導Ⅱ	保育・幼児教育研究Ⅰ 保育・幼児教育研究Ⅱ 保育・幼児教育研究Ⅲ 保育・幼児教育研究Ⅳ 卒業研究・卒業論文 子どもの保健 乳児保育Ⅰ 乳児保育Ⅱ 子どもの健康と安全 保育実習ⅠA 保育実習指導ⅠA 保育実習Ⅱ 保育実習指導Ⅱ		
専任	教授	古田弘子 (65)(高) <令和6年4月> 博士(心身障害学)	古田弘子 (64) <令和6年4月> 博士(心身障害学)	古田弘子 (65)(高) <令和6年4月> 博士(心身障害学)	古田弘子 (66)(高) <令和6年4月> 博士(心身障害学)
		保育・幼児教育研究Ⅰ 保育・幼児教育研究Ⅱ 保育・幼児教育研究Ⅲ 保育・幼児教育研究Ⅳ 卒業研究・卒業論文 特別支援教育概論(障害児保育を含む) 障害児教育総論 知的障害児の言語指導 聴覚障害児教育総論 特別支援学校教育実習 特別支援学校教育実習指導	保育・幼児教育研究Ⅰ 保育・幼児教育研究Ⅱ 保育・幼児教育研究Ⅲ 保育・幼児教育研究Ⅳ 卒業研究・卒業論文 特別支援教育概論(障害児保育を含む) 障害児教育総論 知的障害児の言語指導 聴覚障害児教育総論 特別支援学校教育実習 特別支援学校教育実習指導	保育・幼児教育研究Ⅰ 保育・幼児教育研究Ⅱ 保育・幼児教育研究Ⅲ 保育・幼児教育研究Ⅳ 卒業研究・卒業論文 特別支援教育概論(障害児保育を含む) 障害児教育総論 知的障害児の言語指導 聴覚障害児教育総論 特別支援学校教育実習 特別支援学校教育実習指導	保育・幼児教育研究Ⅰ 保育・幼児教育研究Ⅱ 保育・幼児教育研究Ⅲ 保育・幼児教育研究Ⅳ 卒業研究・卒業論文 特別支援教育概論(障害児保育を含む) 障害児教育総論 知的障害児の言語指導 聴覚障害児教育総論 特別支援学校教育実習 特別支援学校教育実習指導
兼任	講師	古田弘子 (64) <令和5年4月> 博士(心身障害学)	古田弘子 (64) <令和5年4月> 博士(心身障害学)		
		特別支援教育概論(障害児保育を含む) 障害児教育総論	特別支援教育概論(障害児保育を含む) 障害児教育総論		
専任	教授	鄭英美 (50) <令和5年4月> 博士(体育学)(韓国)	鄭英美 (50) <令和5年4月> 博士(体育学)(韓国)	鄭英美 (51) <令和5年4月> 博士(体育学)(韓国)	鄭英美 (52) <令和5年4月> 博士(体育学)(韓国)
		基礎セミナー キャリアデザイン キャリアトレーニング 体育実技Ⅱ 保育・幼児教育研究Ⅰ 保育・幼児教育研究Ⅱ 保育・幼児教育研究Ⅲ 保育・幼児教育研究Ⅳ 卒業研究・卒業論文 保育内容-健康 健康の指導法 身体表現	基礎セミナー キャリアデザイン キャリアトレーニング 体育実技Ⅱ 保育・幼児教育研究Ⅰ 保育・幼児教育研究Ⅱ 保育・幼児教育研究Ⅲ 保育・幼児教育研究Ⅳ 卒業研究・卒業論文 保育内容-健康 健康の指導法 身体表現	基礎セミナー キャリアデザイン キャリアトレーニング 体育実技Ⅱ 保育・幼児教育研究Ⅰ 保育・幼児教育研究Ⅱ 保育・幼児教育研究Ⅲ 保育・幼児教育研究Ⅳ 卒業研究・卒業論文 保育内容-健康 健康の指導法 身体表現	基礎セミナー キャリアデザイン キャリアトレーニング 体育実技Ⅱ 保育・幼児教育研究Ⅰ 保育・幼児教育研究Ⅱ 保育・幼児教育研究Ⅲ 保育・幼児教育研究Ⅳ 卒業研究・卒業論文 保育内容-健康 健康の指導法 身体表現

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
専	教授	田中 卓也 (52) <令和5年4月> 修士(教育学)	専	教授		専	教授		専	教授	
		子どもと環境 教育原理 保育者論 保育・教育課程論 基礎演習Ⅱ 保育内容－環境 環境の指導法 複合領域の指導法Ⅰ※ 複合領域の指導法Ⅱ※ 教育方法論Ⅰ 基礎演習Ⅰ 教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ 教育実習指導Ⅰ 教育実習指導Ⅱ 保育・教職実践演習 保育における連携・接続									
専	教授	吉田 道広 (62) <令和5年4月> 教育学修士	専	教授	吉田 道広 (63) <令和5年4月> 教育学修士	専	教授 (学部長)	吉田 道広 (64) <令和5年4月> 教育学修士	専	教授 (学部長)	吉田 道広 (65) (高) <令和5年4月> 教育学修士
		保育・幼児教育研究Ⅰ 保育・幼児教育研究Ⅱ 保育・幼児教育研究Ⅲ 保育・幼児教育研究Ⅳ 卒業研究・卒業論文 保育マネジメント論 知的障害児教育論※ 肢体不自由児教育論 特別支援教育コーディネーター論 障害児教育課程論 重複/発達障害児教育総論 視覚障害児教育総論 特別支援学校教育実習 特別支援学校教育実習指導			保育・幼児教育研究Ⅰ 保育・幼児教育研究Ⅱ 保育・幼児教育研究Ⅲ 保育・幼児教育研究Ⅳ 卒業研究・卒業論文 保育マネジメント論 知的障害児教育論※ 肢体不自由児教育論※ 特別支援教育コーディネーター論 障害児教育課程論 重複/発達障害児教育総論 視覚障害児教育総論 特別支援学校教育実習 特別支援学校教育実習指導			保育・幼児教育研究Ⅰ 保育・幼児教育研究Ⅱ 保育・幼児教育研究Ⅲ 保育・幼児教育研究Ⅳ 卒業研究・卒業論文 保育マネジメント論 知的障害児教育論※ 肢体不自由児教育論※ 特別支援教育コーディネーター論 障害児教育課程論 重複/発達障害児教育総論 視覚障害児教育総論 特別支援学校教育実習 特別支援学校教育実習指導			保育・幼児教育研究Ⅰ 保育・幼児教育研究Ⅱ 保育・幼児教育研究Ⅲ 保育・幼児教育研究Ⅳ 卒業研究・卒業論文 保育マネジメント論 知的障害児教育論※ 肢体不自由児教育論※ 特別支援教育コーディネーター論 障害児教育課程論 重複/発達障害児教育総論 視覚障害児教育総論 特別支援学校教育実習 特別支援学校教育実習指導
専	准教授	古川 隆幸 (50) <令和5年4月> 健康福祉学修士	専	准教授	古川 隆幸 (50) <令和5年4月> 健康福祉学修士	専	准教授	古川 隆幸 (51) <令和5年4月> 健康福祉学修士	専	准教授	古川 隆幸 (52) <令和5年4月> 健康福祉学修士
		保育実習ⅠB 保育実習指導ⅠB 保育実習Ⅲ 保育実習指導Ⅲ 子ども家庭福祉 子ども家庭支援論 子育て支援 社会福祉 社会的養護Ⅰ 社会的養護Ⅱ 保育ソーシャルワーク実践演習			保育実習ⅠB 保育実習指導ⅠB 保育実習Ⅲ 保育実習指導Ⅲ 子ども家庭福祉 子ども家庭支援論 子育て支援 社会福祉 社会的養護Ⅰ 社会的養護Ⅱ 保育ソーシャルワーク実践演習			保育・幼児教育研究Ⅰ 保育・幼児教育研究Ⅱ 保育・幼児教育研究Ⅲ 保育・幼児教育研究Ⅳ 卒業研究・卒業論文 保育実習ⅠB 保育実習指導ⅠB 保育実習Ⅲ 保育実習指導Ⅲ 子ども家庭福祉 子ども家庭支援論 子育て支援 社会福祉 社会的養護Ⅰ 社会的養護Ⅱ 保育ソーシャルワーク実践演習			保育・幼児教育研究Ⅰ 保育・幼児教育研究Ⅱ 保育・幼児教育研究Ⅲ 保育・幼児教育研究Ⅳ 卒業研究・卒業論文 保育実習ⅠB 保育実習指導ⅠB 保育実習Ⅲ 保育実習指導Ⅲ 子ども家庭福祉 子ども家庭支援論 子育て支援 社会福祉 社会的養護Ⅰ 社会的養護Ⅱ 保育ソーシャルワーク実践演習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	准教授	尾関美和 (56) <令和6年4月> 修士(学術)	基礎セミナー キャリアデザイン キャリアトレーニング 基礎演習Ⅱ 基礎演習Ⅰ 保育実習ⅠA 保育実習ⅠB 保育実習指導ⅠA 特別支援教育概論(障害児保育を含む) 療育論 療育論演習 知的障害児教育論※ 特別支援学校教育実習 特別支援学校教育実習指導	専	准教授	尾関美和 (55) <令和6年4月> 修士(学術)	基礎セミナー キャリアデザイン キャリアトレーニング 基礎演習Ⅱ 基礎演習Ⅰ 保育実習ⅠA 保育実習ⅠB 保育実習指導ⅠA 特別支援教育概論(障害児保育を含む) 療育論 療育論演習 知的障害児教育論※ 特別支援学校教育実習 特別支援学校教育実習指導	専	准教授	尾関美和 (56) <令和6年4月> 修士(学術)	基礎セミナー キャリアデザイン キャリアトレーニング 基礎演習Ⅱ 基礎演習Ⅰ 保育実習ⅠA 保育実習ⅠB 保育実習指導ⅠA 特別支援教育概論(障害児保育を含む) 療育論 療育論演習 知的障害児教育論※ 特別支援学校教育実習 特別支援学校教育実習指導
専	准教授	森(中川)みゆき (50) <令和6年4月> 修士(文学)	熊本学※ 保育内容-音楽表現 表現(音楽)の指導法 複合領域の指導法Ⅰ※ 複合領域の指導法Ⅱ※ 器楽Ⅰ 器楽Ⅱ 器楽Ⅲ 器楽Ⅳ	専	准教授	森(中川)みゆき (50) <令和6年4月> 修士(文学)	熊本学※ 保育内容-音楽表現 表現(音楽)の指導法 複合領域の指導法Ⅰ※ 複合領域の指導法Ⅱ※ 器楽Ⅰ 器楽Ⅱ 器楽Ⅲ 器楽Ⅳ	専	准教授	森みゆき (51) <令和6年4月> 修士(文学)	熊本学※ 保育・幼児教育研究Ⅰ 保育・幼児教育研究Ⅱ 保育・幼児教育研究Ⅲ 保育・幼児教育研究Ⅳ 卒業研究・卒業論文 保育内容-音楽表現 表現(音楽)の指導法 複合領域の指導法Ⅰ※ 複合領域の指導法Ⅱ※ 器楽Ⅰ 器楽Ⅱ 器楽Ⅲ 器楽Ⅳ
兼任	講師	森(中川)みゆき (49) <令和5年4月> 修士(文学)	熊本学※ 器楽Ⅰ	兼任	講師	森(中川)みゆき (50) <令和5年4月> 修士(文学)	熊本学※ 器楽Ⅰ				
専	准教授	中村佐里 (53) <令和5年4月> 修士(教育学)	情報処理Ⅰ 情報処理Ⅱ プレゼンテーション演習 保育ICT演習 教育方法論Ⅱ	専	准教授	中村佐里 (53) <令和5年4月> 修士(教育学)	情報処理Ⅰ 情報処理Ⅱ プレゼンテーション演習 保育ICT演習 基礎演習Ⅱ 保育・幼児教育研究Ⅰ 保育・幼児教育研究Ⅱ 保育・幼児教育研究Ⅲ 保育・幼児教育研究Ⅳ 卒業研究・卒業論文 教育方法論Ⅱ 保育・教職実践演習	専	准教授	中村佐里 (54) <令和5年4月> 修士(教育学)	数理・データサイエンス・AI入門 情報処理Ⅰ 情報処理Ⅱ プレゼンテーション演習 保育ICT演習 基礎演習Ⅱ 保育・幼児教育研究Ⅰ 保育・幼児教育研究Ⅱ 保育・幼児教育研究Ⅲ 保育・幼児教育研究Ⅳ 卒業研究・卒業論文 教育方法論Ⅱ 保育・教職実践演習
専	准教授	中村佐里 (55) <令和5年4月> 修士(教育学)	数理・データサイエンス・AI入門 情報処理Ⅰ 情報処理Ⅱ プレゼンテーション演習 保育ICT演習 基礎演習Ⅱ 保育・幼児教育研究Ⅰ 保育・幼児教育研究Ⅱ 保育・幼児教育研究Ⅲ 保育・幼児教育研究Ⅳ 卒業研究・卒業論文 教育方法論Ⅱ 保育・教職実践演習					専	准教授	中村佐里 (55) <令和5年4月> 修士(教育学)	数理・データサイエンス・AI入門 情報処理Ⅰ 情報処理Ⅱ プレゼンテーション演習 保育ICT演習 基礎演習Ⅱ 保育・幼児教育研究Ⅰ 保育・幼児教育研究Ⅱ 保育・幼児教育研究Ⅲ 保育・幼児教育研究Ⅳ 卒業研究・卒業論文 教育方法論Ⅱ 保育・教職実践演習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
専	准教授	安村由希子 (43) <令和5年4月> 博士(保健医療学)	専	准教授	安村由希子 (43) <令和5年4月> 博士(保健医療学)	専	准教授	安村由希子 (44) <令和5年4月> 博士(保健医療学)
		保育・幼児教育研究法Ⅰ 保育・幼児教育研究法Ⅱ 保育・幼児教育研究Ⅰ 保育・幼児教育研究Ⅱ 保育・幼児教育研究Ⅲ 保育・幼児教育研究Ⅳ 卒業研究・卒業論文 保育内容一言葉 言葉の指導法 複合領域の指導法Ⅰ※ 複合領域の指導法Ⅱ※ 保育実習指導ⅠB 保育実習Ⅲ 保育実習指導Ⅲ 療育論 療育論演習			保育・幼児教育研究法Ⅰ 保育・幼児教育研究法Ⅱ 保育・幼児教育研究Ⅰ 保育・幼児教育研究Ⅱ 保育・幼児教育研究Ⅲ 保育・幼児教育研究Ⅳ 卒業研究・卒業論文 保育内容一言葉 言葉の指導法 複合領域の指導法Ⅰ※ 複合領域の指導法Ⅱ※ 保育実習指導ⅠB 保育実習Ⅲ 保育実習指導Ⅲ 療育論 療育論演習			保育・幼児教育研究法Ⅰ 保育・幼児教育研究法Ⅱ 保育・幼児教育研究Ⅰ 保育・幼児教育研究Ⅱ 保育・幼児教育研究Ⅲ 保育・幼児教育研究Ⅳ 卒業研究・卒業論文 保育内容一言葉 言葉の指導法 複合領域の指導法Ⅰ※ 複合領域の指導法Ⅱ※ 保育実習指導ⅠB 保育実習Ⅲ 保育実習指導Ⅲ 療育論 療育論演習
専	准教授	大江登美子 (57) <令和5年4月> 教育学修士	専	准教授	大江登美子 (57) <令和5年4月> 教育学修士	専	准教授	大江登美子 (58) <令和5年4月> 教育学修士
		保育・幼児教育研究Ⅰ 保育・幼児教育研究Ⅱ 保育・幼児教育研究Ⅲ 保育・幼児教育研究Ⅳ 卒業研究・卒業論文 保育内容一言葉 表現(造形)の指導法 教育実習Ⅰ 教育実習指導Ⅰ 保育実習ⅠA 保育実習指導ⅠA 保育実習Ⅱ 保育実習指導Ⅱ			保育・幼児教育研究Ⅰ 保育・幼児教育研究Ⅱ 保育・幼児教育研究Ⅲ 保育・幼児教育研究Ⅳ 卒業研究・卒業論文 保育内容一言葉 表現(造形)の指導法 教育実習Ⅰ 教育実習指導Ⅰ 保育実習ⅠA 保育実習指導ⅠA 保育実習Ⅱ 保育実習指導Ⅱ			保育・幼児教育研究Ⅰ 保育・幼児教育研究Ⅱ 保育・幼児教育研究Ⅲ 保育・幼児教育研究Ⅳ 卒業研究・卒業論文 保育内容一言葉 表現(造形)の指導法 教育実習Ⅰ 教育実習指導Ⅰ 保育実習ⅠA 保育実習指導ⅠA 保育実習Ⅱ 保育実習指導Ⅱ
専	准教授	増田吹子 (46) <令和5年4月> 修士(教育学)	専	准教授	増田吹子 (46) <令和5年4月> 修士(教育学)	専	准教授	増田吹子 (47) <令和5年4月> 修士(教育学)
		保育・幼児教育研究Ⅰ 保育・幼児教育研究Ⅱ 保育・幼児教育研究Ⅲ 保育・幼児教育研究Ⅳ 卒業研究・卒業論文 保育内容総論 教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ 教育実習指導Ⅰ 教育実習指導Ⅱ 保育実習ⅠA 保育実習指導ⅠA 保育実習指導ⅠB 保育実習Ⅱ 保育実習Ⅲ 保育実習指導Ⅱ 保育実習指導Ⅲ 保育・教職実践演習			保育・幼児教育研究Ⅰ 保育・幼児教育研究Ⅱ 保育・幼児教育研究Ⅲ 保育・幼児教育研究Ⅳ 卒業研究・卒業論文 保育内容総論 教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ 教育実習指導Ⅰ 教育実習指導Ⅱ 保育実習ⅠA 保育実習指導ⅠA 保育実習指導ⅠB 保育実習Ⅱ 保育実習Ⅲ 保育実習指導Ⅱ 保育実習指導Ⅲ 保育・教職実践演習			保育・幼児教育研究Ⅰ 保育・幼児教育研究Ⅱ 保育・幼児教育研究Ⅲ 保育・幼児教育研究Ⅳ 卒業研究・卒業論文 保育内容総論 教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ 教育実習指導Ⅰ 教育実習指導Ⅱ 保育実習ⅠA 保育実習指導ⅠA 保育実習指導ⅠB 保育実習Ⅱ 保育実習Ⅲ 保育実習指導Ⅱ 保育実習指導Ⅲ 保育・教職実践演習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	講師	溝上義則 (53) <令和5年4月> 博士(医学)
		基礎セミナー キャリアデザイン キャリアトレーニング 基礎演習Ⅱ 保育・幼児教育研究Ⅰ 保育・幼児教育研究Ⅱ 保育・幼児教育研究Ⅲ 保育・幼児教育研究Ⅳ 卒業研究・卒業論文 基礎演習Ⅰ 保育実習ⅠB 病弱児の心理・生理・病理 病弱児教育論
専	講師	茂見剛 (30) <令和6年4月> 修士(教育学)
		保育者論 保育・教育課程論 保育・幼児教育研究Ⅰ 保育・幼児教育研究Ⅱ 保育・幼児教育研究Ⅲ 保育・幼児教育研究Ⅳ 卒業研究・卒業論文 教育方法論Ⅰ 教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ 教育実習指導Ⅰ 教育実習指導Ⅱ 保育・教職実践演習 保育における連携・接続
専	講師	砥上あゆみ (45) <令和6年9月> 修士(教育学)
		保育・幼児教育研究Ⅰ 保育・幼児教育研究Ⅱ 保育・幼児教育研究Ⅲ 保育・幼児教育研究Ⅳ 卒業研究・卒業論文 乳児保育Ⅰ 乳児保育Ⅱ 保育実習ⅠB 保育実習指導ⅠB 保育実習Ⅲ 保育実習指導Ⅲ 子ども家庭支援論 子育て支援
兼任	教授	坂田敦子 (63) <令和5年4月> 医学博士
		生命倫理
兼任	教授	守田真理子 (64) <令和5年4月> 家政学士
		食の健康科学 食育論
兼任	教授	北口英穂 (51) <令和5年4月> 博士(中国研究)
		海外語学研修(中国語)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	講師	溝上義則 (53) <令和5年4月> 博士(医学)
		基礎セミナー キャリアデザイン キャリアトレーニング 基礎演習Ⅱ 保育・幼児教育研究Ⅰ 保育・幼児教育研究Ⅱ 保育・幼児教育研究Ⅲ 保育・幼児教育研究Ⅳ 卒業研究・卒業論文 基礎演習Ⅰ 保育実習ⅠB 病弱児の心理・生理・病理 病弱児教育論
専	講師	茂見剛 (30) <令和6年4月> 修士(教育学)
		保育者論 保育・教育課程論 保育・幼児教育研究Ⅰ 保育・幼児教育研究Ⅱ 保育・幼児教育研究Ⅲ 保育・幼児教育研究Ⅳ 卒業研究・卒業論文 教育方法論Ⅰ 教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ 教育実習指導Ⅰ 教育実習指導Ⅱ 保育・教職実践演習 保育における連携・接続
専	講師	砥上あゆみ (45) <令和6年9月> 修士(教育学)
		保育・幼児教育研究Ⅰ 保育・幼児教育研究Ⅱ 保育・幼児教育研究Ⅲ 保育・幼児教育研究Ⅳ 卒業研究・卒業論文 乳児保育Ⅰ 乳児保育Ⅱ 保育実習ⅠB 保育実習指導ⅠB 保育実習Ⅲ 保育実習指導Ⅲ 子ども家庭支援論 子育て支援
兼任	教授	坂田敦子 (63) <令和5年4月> 医学博士
		生命倫理
兼任	教授	守田真理子 (64) <令和5年4月> 家政学士
		食の健康科学 食育論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	講師	溝上義則 (54) <令和5年4月> 博士(医学)
		基礎セミナー キャリアデザイン キャリアトレーニング 基礎演習Ⅱ 保育・幼児教育研究Ⅰ 保育・幼児教育研究Ⅱ 保育・幼児教育研究Ⅲ 保育・幼児教育研究Ⅳ 卒業研究・卒業論文 基礎演習Ⅰ 保育実習ⅠB 病弱児の心理・生理・病理 病弱児教育論
専	講師	茂見剛 (31) <令和6年4月> 修士(教育学)
		教育原理 保育者論 保育・教育課程論 保育・幼児教育研究Ⅰ 保育・幼児教育研究Ⅱ 保育・幼児教育研究Ⅲ 保育・幼児教育研究Ⅳ 卒業研究・卒業論文 教育方法論Ⅰ 教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ 教育実習指導Ⅰ 教育実習指導Ⅱ 保育・教職実践演習 保育における連携・接続
専	講師	砥上あゆみ (45) <令和6年9月> 修士(教育学)
		保育・幼児教育研究Ⅰ 保育・幼児教育研究Ⅱ 保育・幼児教育研究Ⅲ 保育・幼児教育研究Ⅳ 卒業研究・卒業論文 乳児保育Ⅰ 乳児保育Ⅱ 保育実習ⅠB 保育実習指導ⅠB 保育実習Ⅲ 保育実習指導Ⅲ 子ども家庭支援論 子育て支援
兼任	教授	中本貴規 (30) <令和7年3月> 修士(教育学)
		子どもと環境 保育内容—環境 環境の指導法 保育実習ⅠA 保育実習指導ⅠA 保育実習Ⅱ 保育実習指導Ⅱ
兼任	教授	坂田敦子 (64) <令和5年4月> 医学博士
		生命倫理
兼任	教授	守田真理子 (65) <令和5年4月> 家政学士
		食の健康科学 食育論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	講師	溝上義則 (55) <令和5年4月> 博士(医学)
		基礎セミナー キャリアデザイン キャリアトレーニング 基礎演習Ⅱ 保育・幼児教育研究Ⅰ 保育・幼児教育研究Ⅱ 保育・幼児教育研究Ⅲ 保育・幼児教育研究Ⅳ 卒業研究・卒業論文 基礎演習Ⅰ 保育実習ⅠB 病弱児の心理・生理・病理 病弱児教育論
専	講師	茂見剛 (32) <令和6年4月> 修士(教育学)
		教育原理 保育者論 保育・教育課程論 保育・幼児教育研究Ⅰ 保育・幼児教育研究Ⅱ 保育・幼児教育研究Ⅲ 保育・幼児教育研究Ⅳ 卒業研究・卒業論文 教育方法論Ⅰ 教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ 教育実習指導Ⅰ 教育実習指導Ⅱ 保育・教職実践演習 保育における連携・接続
専	講師	砥上あゆみ (46) <令和6年9月> 修士(教育学)
		保育・幼児教育研究Ⅰ 保育・幼児教育研究Ⅱ 保育・幼児教育研究Ⅲ 保育・幼児教育研究Ⅳ 卒業研究・卒業論文 乳児保育Ⅰ 乳児保育Ⅱ 保育実習ⅠB 保育実習指導ⅠB 保育実習Ⅲ 保育実習指導Ⅲ 子ども家庭支援論 子育て支援
兼任	教授	坂田敦子 (65) <令和5年4月> 医学博士
		生命倫理

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	教授	中川明夫 (63) <令和5年4月> 修士(教育学)※(韓国)	海外語学研修(韓国語)
兼任	教授	武田昌憲 (67) <令和5年4月> 文学修士	熊本学※
兼任	教授	柳田紀代子 (64) <令和5年4月> 修士(公共政策学)	熊本学※
兼任	教授	宇野(遠山)文重 (50) <令和5年4月> 博士(法学)	日本国憲法 女性と社会 人権教育
兼任	准教授	山川仁子 (47) <令和5年4月> 博士(学術)	異文化理解
兼任	准教授	黄 蘊 (50) <令和7年4月> 博士(人間科学)	海外語学研修(英語)
兼任	講師	水谷智彦 (38) <令和7年4月> 修士(教育学)	教育社会学
兼任	准教授	市川文子 (60) <令和5年4月> 英語英文学修士	英語 I A 英語 I B 英語 II A 英語 II B
兼任	准教授	柿原一貴 (61) <令和5年4月> 体育学士	保健体育 体育実技 I
兼任	准教授	片桐真弓 (44) <令和5年4月> 教育学修士	保育原理
兼任	講師	本吉菜つみ (39) <令和6年4月> 修士(心理学)	知的障害児の心理・生理・病理※ ※ 肢体不自由児の心理・生理・病理※
兼任	講師	松岡輝樹 (69) <令和6年4月> 修士(医学)	肢体不自由児の心理・生理・病理※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	教授	中川明夫 (63) <令和5年4月> 修士(教育学)※(韓国)	海外語学研修(韓国語)
兼任	教授	武田昌憲 (68) <令和5年4月> 文学修士	熊本学※
兼任	教授	柳田紀代子 (64) <令和5年4月> 修士(公共政策学)	熊本学※
兼任	教授	宇野(遠山)文重 (50) <令和5年4月> 博士(法学)	日本国憲法 女性と社会 人権教育
兼任	准教授	山川仁子 (47) <令和5年4月> 博士(学術)	異文化理解
兼任	准教授	黄 蘊 (48) <令和7年4月> 博士(人間科学)	海外語学研修(英語)
兼任	講師	水谷智彦 (36) <令和7年4月> 修士(教育学)	教育社会学
兼任	教授	金賀誠一 (60) <令和5年4月> 博士(工学)	教職・データサイエンス・AI入門
兼任	准教授	市川文子 (60) <令和5年4月> 英語英文学修士	英語 I A 英語 I B 英語 II A 英語 II B
兼任	准教授	柿原一貴 (61) <令和5年4月> 体育学士	保健体育 体育実技 I
兼任	准教授	片桐真弓 (44) <令和5年4月> 教育学修士	保育原理
兼任	講師	本吉菜つみ (38) <令和6年4月> 修士(心理学)	肢体不自由児の心理・生理・病理※
兼任	講師	松岡輝樹 (68) <令和6年4月> 修士(医学)	肢体不自由児の心理・生理・病理※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	教授	中川明夫 (64) <令和5年4月> 修士(教育学)※(韓国)	海外語学研修(韓国語)
兼任	教授	柳田紀代子 (65) <令和5年4月> 修士(公共政策学)	熊本学※
兼任	教授	宇野(遠山)文重 (51) <令和5年4月> 博士(法学)	日本国憲法 女性と社会 人権教育
兼任	教授	山川仁子 (48) <令和5年4月> 博士(学術)	異文化理解
兼任	准教授	黄 蘊 (49) <令和7年4月> 博士(人間科学)	海外語学研修(英語)
兼任	准教授	村島健司 (44) <令和7年4月> 博士(社会学)	海外語学研修(中国語)
兼任	助教	高嶋江 (32) <令和7年4月> 修士(教育学)	教育社会学
兼任	准教授	市川文子 (61) <令和5年4月> 英語英文学修士	熊本学※ 英語 I A 英語 I B 英語 II A 英語 II B
兼任	准教授	柿原一貴 (62) <令和5年4月> 体育学士	保健体育 体育実技 I
兼任	准教授	片桐真弓 (45) <令和5年4月> 教育学修士	保育原理
兼任	講師	本吉菜つみ (40) <令和6年4月> 修士(心理学)	肢体不自由児の心理・生理・病理※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	教授	中川明夫 (65) <令和5年4月> 修士(教育学)※(韓国)	海外語学研修(韓国語)
兼任	教授	柳田紀代子 (66) <令和5年4月> 修士(公共政策学)	熊本学※
兼任	教授	宇野(遠山)文重 (52) <令和5年4月> 博士(法学)	日本国憲法 女性と社会 人権教育
兼任	准教授	黄 蘊 (50) <令和7年4月> 博士(人間科学)	海外語学研修(英語)
兼任	准教授	村島健司 (44) <令和7年4月> 博士(社会学)	海外語学研修(中国語)
兼任	助教	高嶋江 (33) <令和7年4月> 修士(教育学)	教育社会学
兼任	助教	Tojirakarn Mashima (40) <令和7年4月> 修士(文学)	異文化理解
兼任	准教授	市川文子 (62) <令和5年4月> 英語英文学修士	熊本学※ 英語 I A 英語 I B 英語 II A 英語 II B
兼任	准教授	片桐真弓 (46) <令和5年4月> 教育学修士	保育原理
兼任	講師	本吉菜つみ (41) <令和6年4月> 修士(心理学)	肢体不自由児の心理・生理・病理※
兼任	講師	松岡輝樹 (70) <令和6年4月> 修士(医学)	肢体不自由児の心理・生理・病理※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	辛教燦 (40) ＜令和5年4月＞ 博士(文学)
		韓国語 I 韓国語 II
兼任	講師	黨武彦 (59) ＜令和5年4月＞ 博士(文学)
		中国語 I 中国語 II
兼任	講師	山崎浩隆 (62) ＜令和6年4月＞ 修士(教育学)
		音楽
兼任	講師	式潤子 (50) ＜令和5年4月＞ Bachelor of Science (米国)
		日本語表現 I 日本語表現 II
兼任	講師	下城香 (80) ＜令和5年4月＞ 短期大学士
		日本伝統文化入門
兼任	講師	永井恭代 (62) ＜令和5年4月＞ 学士(音楽)
		器楽 I 器楽 II 器楽 III 器楽 IV
兼任	講師	村岡真由美 (62) ＜令和5年4月＞ 学士(音楽)
		器楽 I 器楽 II 器楽 III 器楽 IV
兼任	講師	岩崎かおり (56) ＜令和5年4月＞ 学士(音楽)
		器楽 I 器楽 II 器楽 III 器楽 IV
兼任	講師	渡邊雪子 (44) ＜令和5年4月＞ 学士(音楽)
		器楽 I 器楽 II 器楽 III 器楽 IV
兼任	講師	林奈津美 (39) ＜令和5年4月＞ 学士(音楽)
		器楽 I 器楽 II 器楽 III 器楽 IV
兼任	講師	泉紀子 (46) ＜令和5年4月＞ 修士(音楽)
		器楽 I 器楽 II 器楽 III 器楽 IV
兼任	講師	千田有希子 (55) ＜令和5年4月＞ 学士(音楽)
		器楽 I 器楽 II 器楽 III 器楽 IV

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	辛教燦 (40) ＜令和5年4月＞ 博士(文学)
		韓国語 I 韓国語 II
兼任	講師	黨武彦 (59) ＜令和5年4月＞ 博士(文学)
		中国語 I 中国語 II
兼任	講師	山崎浩隆 (61) ＜令和6年4月＞ 修士(教育学)
		音楽
兼任	講師	式潤子 (50) ＜令和5年4月＞ Bachelor of Science (米国)
		日本語表現 I 日本語表現 II
兼任	講師	下城香 (80) ＜令和5年4月＞ 短期大学士
		日本伝統文化入門
兼任	講師	永井恭代 (63) ＜令和5年4月＞ 学士(音楽)
		器楽 I 器楽 II 器楽 III 器楽 IV
兼任	講師	村岡真由美 (62) ＜令和5年4月＞ 学士(音楽)
		器楽 I 器楽 II 器楽 III 器楽 IV
兼任	講師	岩崎かおり (56) ＜令和5年4月＞ 学士(音楽)
		器楽 I 器楽 II 器楽 III 器楽 IV
兼任	講師	渡邊雪子 (45) ＜令和5年4月＞ 学士(音楽)
		器楽 I 器楽 II 器楽 III 器楽 IV
兼任	講師	林奈津美 (39) ＜令和5年4月＞ 学士(音楽)
		器楽 I 器楽 II 器楽 III 器楽 IV
兼任	講師	泉紀子 (46) ＜令和5年4月＞ 修士(音楽)
		器楽 I 器楽 II 器楽 III 器楽 IV
兼任	講師	千田有希子 (55) ＜令和5年4月＞ 学士(音楽)
		器楽 I 器楽 II 器楽 III 器楽 IV

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	辛教燦 (41) ＜令和5年4月＞ 博士(文学)
		韓国語 I 韓国語 II
兼任	講師	黨武彦 (60) ＜令和5年4月＞ 博士(文学)
		中国語 I 中国語 II
兼任	講師	山崎浩隆 (62) ＜令和6年4月＞ 修士(教育学)
		音楽
兼任	講師	式潤子 (51) ＜令和5年4月＞ Bachelor of Science (米国)
		日本語表現 I 日本語表現 II
兼任	講師	下城香 (81) ＜令和5年4月＞ 短期大学士
		日本伝統文化入門
兼任	講師	永井恭代 (64) ＜令和5年4月＞ 学士(音楽)
		器楽 I 器楽 II 器楽 III 器楽 IV
兼任	講師	村岡真由美 (63) ＜令和5年4月＞ 学士(音楽)
		器楽 I 器楽 II 器楽 III 器楽 IV
兼任	講師	岩崎かおり (57) ＜令和5年4月＞ 学士(音楽)
		器楽 I 器楽 II 器楽 III 器楽 IV
兼任	講師	渡邊雪子 (46) ＜令和5年4月＞ 学士(音楽)
		器楽 I 器楽 II 器楽 III 器楽 IV
兼任	講師	林奈津美 (40) ＜令和5年4月＞ 学士(音楽)
		器楽 I 器楽 II 器楽 III 器楽 IV
兼任	講師	泉紀子 (47) ＜令和5年4月＞ 修士(音楽)
		器楽 I 器楽 II 器楽 III 器楽 IV
兼任	講師	千田有希子 (56) ＜令和5年4月＞ 学士(音楽)
		器楽 I 器楽 II 器楽 III 器楽 IV

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	辛教燦 (42) ＜令和5年4月＞ 博士(文学)
		韓国語 I 韓国語 II
兼任	講師	黨武彦 (61) ＜令和5年4月＞ 博士(文学)
		中国語 I 中国語 II
兼任	講師	山崎浩隆 (63) ＜令和6年4月＞ 修士(教育学)
		音楽
兼任	講師	式潤子 (52) ＜令和5年4月＞ Bachelor of Science (米国)
		日本語表現 I 日本語表現 II
兼任	講師	下城香 (82) ＜令和5年4月＞ 短期大学士
		日本伝統文化入門
兼任	講師	永井恭代 (65) ＜令和5年4月＞ 学士(音楽)
		器楽 I 器楽 II 器楽 III 器楽 IV
兼任	講師	村岡真由美 (64) ＜令和5年4月＞ 学士(音楽)
		器楽 I 器楽 II 器楽 III 器楽 IV
兼任	講師	岩崎かおり (58) ＜令和5年4月＞ 学士(音楽)
		器楽 I 器楽 II 器楽 III 器楽 IV
兼任	講師	渡邊雪子 (47) ＜令和5年4月＞ 学士(音楽)
		器楽 I 器楽 II 器楽 III 器楽 IV
兼任	講師	林奈津美 (41) ＜令和5年4月＞ 学士(音楽)
		器楽 I 器楽 II 器楽 III 器楽 IV
兼任	講師	泉紀子 (48) ＜令和5年4月＞ 修士(音楽)
		器楽 I 器楽 II 器楽 III 器楽 IV
兼任	講師	千田有希子 (57) ＜令和5年4月＞ 学士(音楽)
		器楽 I 器楽 II 器楽 III 器楽 IV

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	正源司有加 (34) <令和5年4月> 修士(音楽)	音楽基礎 器楽Ⅰ 器楽Ⅱ 器楽Ⅲ 器楽Ⅳ
兼任	講師	池上由美 (62) <令和7年4月> 修士(環境共生学)	子どもの食と栄養
		菊池哲平 (46) <令和5年4月> 博士(心理学)	知的障害児の心理・生理・病理※
		徳永豊 (62) <令和6年10月> 教育学修士	肢体不自由児教育論※
		多久馨一 (71) <令和6年4月> 医学士	肢体不自由児の心理・生理・病理※
		矢野潔子 (53) <令和6年10月> 博士(教育学)	子どもの保健 子どもの健康と安全
		芝貴和子 (38) <令和7年4月> 短期大学士	食の健康科学 食育論 子どもの食と栄養

- (注)・報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・「認可時又は届出時」には設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字としてください。**
 - ・年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
 - ・専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実み)、兼任、兼任の順に記入してください。
 - ・不要な年度(令和6年度開設であれば令和5年度以前)の表は適宜削除してください。
 - ・指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「担当授業科目名」の上段に変更後のカリキュラム(新カリキュラム)の授業科目名を記入するとともに、下段に変更前のカリキュラム(旧カリキュラム)の

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和5年度】

(専任)

- ・学部の運営に必要なため、矢野潔子教授を学科長として任命。
- ・矢野潔子教授退職。矢野教授の後任として専任教員採用予定で公募中。
- ・鄭英美教授担当科目「健康の指導法」授業の内容を変更。令和5年8月AC教員審査済み。
- ・田中卓也教授就任辞退。令和5年度内の専任教員採用予定で公募中。
- ・吉田道広教授の担当科目「特別支援教育概論(障害児保育を含む)」を追加。令和5年2月AC教員審査済み。
- ・吉田道広教授の担当科目「肢体不自由児教育論」について、教育効果向上のため、単独開講科目から兼任の徳永豊講師とのオムニバス形式に変更。
- ・中村佐里准教授の担当科目「基礎演習Ⅱ」を追加。令和5年8月AC教員審査済み。
- ・中村佐里准教授の担当科目「保育・教職実践演習」を追加。令和5年11月AC教員審査済み。
- ・安村由希子准教授の担当科目「言葉の指導法」の授業の内容を変更。令和5年8月AC教員審査済み。
- ・大江登美子准教授の担当科目「教育実習Ⅱ」及び「教育実習指導Ⅱ」を追加。令和6年2月AC教員審査済み。
- ・増田吹子准教授の担当科目「保育内容総論」の概要を変更。令和5年2月AC教員審査済み。
- ・増田吹子准教授の担当科目「教育原理」及び「基礎演習Ⅰ」を追加。令和5年8月AC教員審査済み。
- ・増田吹子准教授の担当科目「保育・教職実践演習」の授業の内容を変更。令和5年11月AC教員審査済み。
- ・増田吹子准教授の担当科目「保育内容-環境」及び「環境の指導法」を追加。令和6年2月AC教員審査済み。
- ・茂見剛講師の新規就任。担当科目「保育者論」、「保育・教育課程論」、「保育・幼児教育研究Ⅰ」、「保育・幼児教育研究Ⅱ」、「保育・幼児教育研究Ⅲ」、「保育・幼児教育研究Ⅳ」、「卒業研究・卒業論文」、「教育方法論Ⅰ」、「教育実習Ⅰ」、「教育実習Ⅱ」、「教育実習指導Ⅰ」、「教育実習指導Ⅱ」、「保育・教職実践演習」及び「保育における連携・接続」令和5年11月AC教員審査済み。

(兼任・兼任)

- ・兼任の北口英穂教授の退職。後任者が担当予定。
- ・兼任の武田昌憲教授の定年退職。
- ・兼任の水谷智彦講師の退職。
- ・授業科目「数理・データサイエンス・AI入門」の科目追加のため、兼任の釜賀誠一教授を追加。
- ・授業科目「知的障害児の心理・生理・病理」の教育効果向上のため、兼任の本吉菜つみ講師から兼任の菊池哲平講師に変更。
- ・授業科目「肢体不自由児教育論」の教育効果向上のため、兼任の徳永豊講師を追加。

【令和6年度】

(専任)

- ・浜崎隆司教授の担当科目「保育・幼児教育研究Ⅰ」、「保育・幼児教育研究Ⅱ」、「保育・幼児教育研究Ⅲ」、「保育・幼児教育研究Ⅳ」、「卒業研究・卒業論文」を追加。令和6年11月AC教員審査済み。
- ・古田弘子教授の担当科目「障害児教育総論」の授業内容変更。令和6年11月AC教員審査済み。
- ・後任の学科長として吉田道広教授を任命。
- ・吉田道広教授の担当科目「障害児教育総論」を追加。令和6年11月AC教員審査済み。
- ・古川隆幸准教授の担当科目「保育・幼児教育研究Ⅰ」、「保育・幼児教育研究Ⅱ」、「保育・幼児教育研究Ⅲ」、「保育・幼児教育研究Ⅳ」、「卒業研究・卒業論文」を追加。令和6年11月AC教員審査済み。
- ・尾関美和准教授の担当科目「療育論」の授業内容変更。令和6年11月AC教員審査済み。
- ・尾関美和准教授の担当科目「保育・幼児教育研究Ⅰ」、「保育・幼児教育研究Ⅱ」、「保育・幼児教育研究Ⅲ」、「保育・幼児教育研究Ⅳ」、「卒業研究・卒業論文」を追加。令和6年11月AC教員審査済み。
- ・森(中川)みゆきの氏名について、一身上の都合により森みゆきに変更。
- ・森みゆき准教授の担当科目「保育・幼児教育研究Ⅰ」、「保育・幼児教育研究Ⅱ」、「保育・幼児教育研究Ⅲ」、「保育・幼児教育研究Ⅳ」、「卒業研究・卒業論文」を追加。令和6年11月AC教員審査済み。
- ・中村佐里准教授の担当科目「数理・データサイエンス・AI入門」を追加。令和6年8月AC教員審査済み。兼任の釜賀誠一教授から変更。
- ・中村佐里准教授の担当科目「保育・幼児教育研究Ⅰ」、「保育・幼児教育研究Ⅱ」、「保育・幼児教育研究Ⅲ」、「保育・幼児教育研究Ⅳ」、「卒業研究・卒業論文」を追加。令和6年11月AC教員審査済み。
- ・安村由希子准教授の担当科目「療育論」の授業内容変更。令和6年11月AC教員審査済み。
- ・茂見剛講師の担当科目「教育原理」を追加。令和6年5月AC教員審査済み。増田吹子准教授から茂見剛講師に担当者変更。
- ・砥上あゆみ講師の新規就任。担当科目「乳児保育Ⅰ」、「乳児保育Ⅱ」、「保育実習ⅠB」、「保育実習ⅡB」、「保育実習Ⅲ」、「保育実習指導Ⅲ」を追加。令和6年8月AC教員審査済み。
- ・授業科目「子ども家庭支援論」及び「子育て支援」について、教育効果向上のため、古川隆幸准教授から砥上あゆみ講師に変更。令和7年2月AC教員審査済み。
- ・砥上あゆみ講師の担当科目「保育・幼児教育研究Ⅰ」、「保育・幼児教育研究Ⅱ」、「保育・幼児教育研究Ⅲ」、「保育・幼児教育研究Ⅳ」、「卒業研究・卒業論文」を追加。令和6年11月AC教員審査済み。
- ・中本貞規講師の新規就任。「子どもの環境」「保育内容-環境」「環境の指導法」「保育実習ⅠA」「保育実習指導ⅠA」「保育実習Ⅱ」「保育実習指導Ⅱ」令和6年11月AC教員審査済み。

(兼任・兼任)

- ・兼任の山川仁子の職位について、准教授から教授に昇格。
- ・兼任の山川仁子教授の退職。
- ・「海外語学研修(中国語)」の担当者として、兼任の村島健司准教授を追加。
- ・「教育社会学」の担当者として、兼任の高嶋江助教を追加。
- ・「熊本学」の担当者として、兼任の市川准教授を追加。
- ・兼任の柿原一貴准教授の退職。専任教員に変更予定であり。令和7年度第1回AC教員審査受審中
- ・「肢体不自由児の心理・生理・病理」兼任の松岡輝樹講師の一時就任辞退に伴い、多久肇一講師に変更。
- ・「子どもの保健」、「子どもの健康と安全」の担当者として兼任の矢野潔子講師に交換。
- ・兼任の池上由美講師の就任辞退に伴い、後任者を採用選考中。

【令和7年度】

(兼任・兼任)

- ・「異文化理解」の担当者を兼任の山川仁子教授から兼任のTojirakarn Mashima助教に変更。
- ・兼任の守田真里子教授の辞退により、「食育論」と「食の健康科学」を兼任の芝貴和子講師に変更。
- ・「子どもの食と栄養」の担当者として、兼任の芝貴和子講師を追加。
- ・兼任の多久肇一講師から、認可時と同じ松岡輝樹講師に交代。

(注) 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。

- ・認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(A C教員審査)を受けてください。原則としてA C教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。
- ・A C教員審査の結果、「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・不要な年度(令和6年度開設であれば令和5年度以前)の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(注)・計画の区分が「学部等連係課程実施基本組織(学科連係課程実施学科)の設置」の場合、大学設置基準第四十二条の三の二(短期大学設置基準第三条の二)に基づく「連係協力学部等(連係協力学科)」の専任教員数について、「(2)-① 設置基準上の必要専任教員数」及び「(2)-② 専任教員等数【大学】」を連係協力学部等(連係協力学科)ごとに別ファイルで作成してください。

(2)-① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数
	8 名
	4 名

(注)・大学設置基準別表第一、短期大学設置基準別表第一イ、高等専門学校設置基準第六条第二項及び第三項又は第四項により算出される専任教員数を記入してください。

・高等専門学校の場合、「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数」欄は「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授・准教授数として、高等専門学校設置基準第八条により算出される必要教授・准教授数を記入してください。

(2)-② 専任教員等数【大学・高专】

設置時の計画						現在(報告時)の状況					
教授	准教授	講師	助教	計(A)	助手(A')	教授	准教授	講師	助教	計(B)	助手(B')
6	7	1	0	14	0	4	7	4	0	15	0
(5)	(5)	(1)	(0)	(11)	(0)						
現在(報告時)の完成年度時の状況						現在(報告時)の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計(C)	助手(C')	教授	准教授	講師	助教	計(D)	助手(D')
4	7	4	0	15	0	6	5	4	0	15	0
[Δ2]	[0]	[3]	[0]	[1]	[0]	[0]	[Δ2]	[3]	[0]	[1]	[0]

(注)・「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、()内に開設時の状況を記入してください。

・「現在(報告時)の状況」には、報告年度の5月1日の教員数(実人数)を記入してください。

・「現在(報告時)の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在(報告時)の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在(報告時)の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、

[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例: 1名減の場合: Δ 1)

・「現在(報告時)の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、

[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例: 1名減の場合: Δ 1)

(2)-③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢(歳)	報告時(上記 (B))の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時(上記 (C))の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
65 歳	3 名	3 名

(注)・「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢(特例等による定年年齢ではありません)、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。

・なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段階まで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2)-④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{15}{14} = \boxed{107.14} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑤ 現在(報告時)の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在(報告時)の状況(B)}} = \frac{3}{15} = \boxed{20} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
1	教授	田中 卓也	R5.3	選択	子どもと環境	①	R5.3 一身上の都合により就任辞退（5）			
				必修	教育原理	①				
				必修	保育者論	①				
				必修	保育・教育課程論	①				
				必修	教育方法論 I	①				
				選択	教育実習 I	①				
				選択	教育実習 II	①				
				選択	教育実習指導 I	①				
				選択	教育実習指導 II	①				
				必修	保育・教職実践演習	①				
				必修	保育内容－環境	①				
				必修	環境の指導法	①				
				選択	複合領域の指導法 I ※	③				
				選択	複合領域の指導法 II ※	③				
				選択	保育における連携・接続	①				
必修	基礎演習 I	①								
必修	基礎演習 II	①								
合計 (D)				後任補充状況の集計 (E)						
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)		
1	人	必修	9	科目	必修	9	科目	必修	0	科目
		選択	8	科目	選択	6	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	17	科目	計	15	科目	計	0	科目

(注)・認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。

- ・「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
- ・昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
1	教授	矢野 潔子	R6.3	選択	子どもの保健	②	R6.3.31付け一身上の理由のため辞任（6）
				選択	乳児保育 I	①	
				選択	乳児保育 II	①	
				選択	子どもの健康と安全	②	
				選択	保育実習 I A	①	
				選択	保育実習指導 I A	①	
				選択	保育実習 II	①	
				選択	保育実習指導 II	①	
				必修	保育・幼児教育研究 I	①	
				必修	保育・幼児教育研究 II	①	
				必修	保育・幼児教育研究 III	①	
				必修	保育・幼児教育研究 IV	①	
				必修	卒業研究・卒業論文	①	

合計 (F)				後任補充状況の集計 (G)							
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)			
1	人	必修	5 科目	必修	5 科目	必修	0 科目	必修	0 科目		
		選択	8 科目	選択	6 科目	選択	2 科目	選択	0 科目		
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目		
		計	13 科目	計	11 科目	計	2 科目	計	0 科目		

(注)・一度就任した後に、**定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員**について、記入してください。

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
- ・また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・専任教員が担当する(している)場合は「①」
- ・兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」
- ・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (D) + (F)				後任補充状況の集計 (E) + (G)							
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)			
2	人	必修	14 科目	必修	14 科目	必修	0 科目	必修	0 科目		
		選択	16 科目	選択	12 科目	選択	2 科目	選択	2 科目		
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目		
		計	30 科目	計	26 科目	計	2 科目	計	2 科目		

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D) + (F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{2}{14} = 14.28 \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 令和6年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

0 人

(注)・(3) - ①、(3) - ②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。

- ・令和7年度開設の学科等の場合、(D) + (F) と同数を記載してください。

(3) - ⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
						該当なし			
合計				後任補充状況の集計					
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

(注)・ **定年により退職した全ての専任教員**について、記入してください。

- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び () 書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・ 専任教員が担当する (している) 場合は「①」・ 兼任兼担教員が担当する (している) 場合は「②」・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

本学における一部授業科目の担当体制について、下記のとおりご報告申し上げます。

1. 大学の所見について

「子どもの保健」(卒業選択科目)および「子どもの健康と安全」(卒業選択科目)の2科目につきましては、当初、専任教員として矢野潔子氏(現・熊本大学大学院教授)が担当予定でしたが、同氏が辞任となりました。この事態を受け、本学では専任教員の確保を目的として、2度にわたり教員公募を実施し、その結果として、令和6年度第2回AC教員審査において専任候補者の審査を受審いたしました。当該授業科目に係る判定は「不可」とされました。

この審査結果を踏まえ、学生の履修や学修機会への影響を最小限に抑えるため、設置認可時に当該科目の担当として教員審査で「可」の判定を受けていた元専任教員である矢野潔子氏を、現在は非常勤講師として任用し、授業を実施しております。本学としては、教員審査における科目ごとの判定を尊重し、教育の質の維持を最優先とする観点から、対応を講じているところです。

就任を辞退された田中卓也氏が担当予定であった科目のうち、後任が未定であり、かつ科目廃止等の措置が講じられていない科目(教員審査区分③に該当)については、令和7年度第2回AC教員審査において、改めて専任教員を受審させる予定でございます。

2. 学生への周知について

担当教員の変更や授業実施体制については、シラバス等を通じて学生へ周知しており、教育内容および履修方法についても適切に担保しています。

3. 今後の方針について

今後とも、設置申請内容の確実な履行に努めるとともに、当初の教育計画に基づいた授業運営を行い、教育の質の確保に万全を期してまいります。

(注)・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の の 実 施 計 画
<p>認 可 時</p> <p>(令和4年)</p>	<p>補正申請書において新たに必修科目として設定した「療育論」について、「審査意見への対応を記載した書類（6月）」では「発達障害児の幼児教育、保育について扱う『療育論』」と説明されており、シラバスにおいても発達障害を中心に扱う限定的な授業内容となっており、一般的にはその名称からは保育現場等における支援のニーズのある子供に関するより幅広い学びが想起される。このことから、学生が履修に当たって授業内容を適切に理解できるよう、授業内容に応じた適切な授業名称に改めること。なお、当該授業科目の名称や到達目標等に鑑み、発達障害以外の支援のニーズを有する子供に関する理解や知識習得を促す観点から授業内容やシラバスの充実を図り、「療育論」の名称に応じた授業内容に改めることも望ましい。</p>	<p>本学の「療育論」では、保育現場等における支援のニーズのある子供に関するより幅広い学びを行うこととし、授業名称は変更せず、授業内容を次のとおり改めることとする。まず、幼児教育・保育に関わる療育が多様化・専門化していることを踏まえながら、障害児施設・事業の全体像を捉えるとともに、特に、幼稚園、こども園や保育所と並行して利用されることが多い児童発達支援や放課後等デイサービス等の障害児通所系の支援の内容について理解を深めることとする。また、療育は発達障害、知的障害、肢体不自由など様々な障害のある子どもが利用することから、代表的な療育の種類やアセスメントの方法と評価について具体的に学ぶ。その上で、年齢に応じた療育の具体例について学ぶ。これらにより、幼児期の子どもに必要な療育について理解を深めることとする。以上のように障害のある子どもに行われる療育の内容とその成果を具体的に理解することで、療育との関連性を考慮しながら、様々な障害のある子ども一人一人の保育を充実できる力を養うことができると考えている。【授業内容（シラバス記載事項）】障害児施設・事業には入所支援、通所支援に分けられる。障害児通所系の支援である児童発達支援や放課後等デイサービスは、幼稚園、こども園や保育所と並行して利用されることも多く、保育者にとっても身近な存在となっている。また、障害児通所系で行われる日常生活における基本的な動作の指導、知識技能の付与、集団生活への適応訓練などの療育の成果を保育につなげることが重要である。そこで、本授業では児童発達支援の概要、及び、療育の種類とアセスメントについて学ぶことで療育についての理解を深め、成果を活用できる力を養うことにする。授業においては、発達検査の実技を取り入れるなどして体験的に療育について考えることで、柔軟な視点から子どもへの効果的な支援を進める力を養うことにつなげる。(5)なお、令和5年度設置計画履行状況報告書において、報告済み。(6) (7)</p>	<p>履行済</p>

<p>設置計画履行状況</p> <p>調査結果</p> <p>(令和5年度)</p>	<p>教育内容の充実等を通じ、収容定員未充足の改善に努めること。</p>	<p>【収容定員未充足の原因分析の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和5(2023)年4月に新規設置したこども教育学部の学生募集においては、学部設置認可及び教職課程認定後の令和5(2023)年1月以降に入学者選抜(大学入学共通テスト利用型選抜(募集定員15人)は実施せず)を行い、受験者27人、入学者20人であった。 令和6(2024)年度入試からは通年(他学部同様の入試日程)での学生募集が可能となったため、オープンキャンパス(令和5(2023)年3月から8月まで計5回実施)、教職員による高校訪問、進学ガイダンス・入試説明会、出前講義、大学ホームページやSNSの活用など多様な周知・広報活動を実施した結果、こども教育学部の認知度の向上が見られ、地元(熊本県)の高校等からの入学志願者及び入学者数は前年比100%増の40人となった。しかし、さらに広範囲となる高校等への周知・広報活動等に十分な期間が確保できなかったこと等が入学定員70人を充足するに至らなかった理由と考える。 <p>【今年度の学生確保の状況等について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和6(2024)年12月までに実施した令和7(2025)年度入学選抜の結果は以下のとおりである。 総合型選抜(第1回・第2回)合格者数 8人(前年度 20人) 学校推薦型選抜 合格者数 28人(前年度 20人) 編入学選抜 合格者数 6人(前年度 未実施) 令和6(2024)年12月までに実施した入学選抜においては、前年度の入学者数をほぼ確保していることから、令和7(2025)年2月以降に実施する一般選抜、大学入学共通テスト利用型選抜、総合型選抜等を加味した場合、入学者の増加及びこれに伴う入学定員充足率の改善が見込まれる。(6)(7) 	<p>履行中</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和5(2023)年度に実施したオープンキャンパス参加者のうち令和6(2024)年度入試で本学に入学したものの割合は48.6%と高かったため、令和6(2024)年度オープンキャンパスにおいては参加者数目標を設定し、参加者数の増加に努めた。その結果、令和6(2024)年度のこども教育学部オープンキャンパス参加者数は前年比6.8%増の127人へと増加しており、今後の入学者の増加が期待される。 令和6(2024)年度学生募集については、本学への進学実績が多い県内や近隣他県への高校訪問、高校生・保護者等に直接の訴求を行う進学ガイダンス・個別相談会等の積極的な参加など、教職協働による取組みを推進している。 広報誌や学部学科の特色を記載したチラシの配布、公共交通機関の車内におけるオープンキャンパス開催広告、大学ホームページやSNSを活用した広域での広報活動を行うことにより、訴求の対象を広げている。 大学卒業後を視野に入れた広報活動においては、保育・教育の場で特別な支援へのニーズが高まっていることを背景に、保育士資格、幼稚園教諭一種免許状、特別支援学校教諭一種免許状(知的障害者、肢体不自由者、病弱者)の三つの免許・資格を同時に取得できる特色と優位性を訴求している。当地(熊本県)においては二つの教育職員免許状(幼免一種・特支一種)の取得により、熊本県教員採用選考考査(特別支援学校・学級等専願)の受考が可能である点も積極的に発信することにより、本学への進学の優位性を強調している。 令和7(2025)年度入学選抜からの編入学選抜の実施に当たり、受験者が見込める併設の短期大学部幼児教育学科の学生及び卒業生を対象とした説明会を実施し、編入学者の増加を図っている。また、受験希望者の相談日時等の個別ニーズに応じた細やかな相談会を実施することによる受験者数・入学者数の引き上げを行い、収容定員充足率の改善を図る。(6)(7)
--	--------------------------------------	---	---

<p>設置計画履行状況</p>	<p>収容定員充足率が0.42倍と著しく低い。教育内容の更なる充実を図りつつ、提示された学生確保に向けた取組等を確実に実施するとともに、より効果的な改善策を新たに講じる等、入学定員の更なる充足に努めること。また、速やかに長期的な学生確保の見通しを客観的根拠に基づき分析した上で、適切な入学定員の見直しを検討すること。教育内容の充実等を通じ、収容定員未充足の改善に努めること。</p>	<p>(1) 学生募集と志願者増加の取組等 令和6(2024)年度の学生募集では学生確保に向けた取組として多様な取組を実施し改善を図った。まず、効率的な改善策として本学への進学実績がある熊本県内及び近隣県への高校訪問や進学ガイダンス等への積極的な参加など広報活動の強化を講じた。またオープンキャンパスへの参加者数の増加を図り参加者数は前期比6.8%増加した。更に多様な受験ニーズに応えるため個別対応型での受験相談会を実施し細やかな受験相談等に対応した。 学生募集の訴求を高めるため広報手段においては広報誌『キャンパスガイド』や学びの特色を記載したリーフレットの作成、大学ホームページ・SNSの活用、公共交通機関での広告掲載など、本学部の認知度の向上を図り入学志願者の増加を訴求するなど、多様な取組みを実施し収容定員充足率の改善に努めた。</p> <p>(2) 進学後のキャリア形成と本学の特色訴求 幼児教育・保育分野での特別支援教育へのニーズの高まりを背景に、本学部における幼稚園教諭一種免許状、特別支援学校教諭一種免許状及び保育士資格の3つの免許・資格を同時取得できる特色を積極的に訴求した。特に熊本県においては、幼稚園教諭一種免許状・特別支援学校教諭一種免許状の取得により、県の特別支援学校・学級等専願の教員採用選考審査を受考できる点を説明し、資格取得の優位性を発信することにより教員希望者の取り込みを図った。</p> <p>(3) 編入学制度の導入と収容定員充足率の改善 令和7(2025)年度から募集を開始した第3年次編入学選抜では、収容定員充足率の改善を図るべく、併設の短期大学部幼児教育学科の在学生・卒業生を中心に募集を行い、編入学者を得た。(7)</p>	<p>(1) 学生確保のための新たな改善策の実施 大学の学生募集等に関する広報を専門的に担う部署として、令和7(2025)年4月の事務組織改編を行い学園事務局総務部に広報課を新設し、全学を対象とした効果的な広報活動を行い、学生確保を図ることとした。</p> <p>今後の効果的な改善策としては、オープンキャンパスの来場者増加を図るため、より多くの高校生や入学志望者への働き掛けを強化していく。紙媒体では、年度初めに大学広報誌『キャンパスガイド』を発行するとともに、大学全体や学部学科の特色・強みを記載したチラシ・ポスターを高校等に配布しオープンキャンパスへの勧誘を行う。インターネット媒体では、ホームページの改善をはじめ、公式SNS(LINE、Instagram、YouTube、X(旧ツイッター))の年間配信目標数を設定し情報の配信を行う。また、テレビ番組/CMや公共交通機関での広告掲載などの様々なメディアの活用により、高校生等のオープンキャンパスへの参加促進や入学者選抜への出願につなげる。加えて、本学への進学実績がある熊本県内及び近隣県の高校への広域かつ重点的な訪問活動や進学ガイダンス、出前授業、高校からの協力依頼が増えつつある探究活動への協力、個別相談会、学校見学等を通じた高校生への直接的な訴求活動を一層強化し、志願者の増加を図っていく。</p> <p>(2) 長期的な学生確保の見通し及び適切な入学定員の見直しの検討 令和6年度学校基本調査では熊本県内の高等学校・中学校の学年別生徒数は、高校2年生(令和8年度大学等進学年次)が14,263人、高校1年生(令和9年度大学等進学年次)が14,709人、中学3年生(令和10年度大学等進学年次)が16,201人、中学2年生(令和11年度大学等進学年次)が16,340人と増加傾向にある。また大学等への進学率においては令和6年3月における熊本県内の高等学校(全日制・定時制)卒業生(13,401人)の大学・短期大学の通信教育部への進学者を除く進学者(6,759人)の進学率は50.4%で、前年度より1.4ポイント上昇している。このうち、大学進学者(6,214人)の進学率は46.4%で、前年度より1.9ポイント上昇しており、今後とも大学等進学年次の生徒数の増加並びに大学進学率の向上により、熊本県内における大学への進学者数は増加が想定される。</p>
<p>調査結果</p>	<p>【A C】 是正意見</p>	<p>履行中</p>	

(令和6年度)			<p>令和6年度における本学部の収容定員充足率は0.42倍と低い状態であるが、当地における幼児教育・保育者の養成と社会への輩出の期待に沿うべく、教育内容の更なる充実を図るとともに、学生確保については多様な取組を確実に実施し、今後想定される大学進学予定者への積極的な教育情報の発信と本学への進学希望者の増加を図る。行政（熊本県）においても「保育士養成施設に対する就職等促進支援事業」の対象校として本学を支援予定であり地域社会における幼児教育・保育者の養成において本学の中心的役割が期待されていることから、今後は行政と連携し、中高の生徒を対象としたイベントを含む多様な学生募集（幼児教育・保育者の養成）の実施を検討し、積極的な募集活動を実施することとしている。</p> <p>上記の改善策を総合的に展開し、こども教育学部の入学定員充足率の早期改善を図るとともに、学生確保に向けた取組等を継続的に実施することにより長期的な観点からは入学者数の確保は可能であると考え、入学定員の見直しの検討は行っていない。(7)</p>
---------	--	--	--

(注)・「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。以下同様。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。

- ・ 認可時または届出時に付された附帯事項に対する履行状況等の記載に当たっては、以下のとおりに記載してください。

【令和6年度報告書から記載内容に変更がある場合】

令和6年度報告書の記載内容を転記し文末に「(6)」と記載した上で、変更後の「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「(7)」と記載してください。

【令和6年度報告書から記載内容に変更がない場合】

令和6年度報告書の記載内容を転記し文末に「(6) (7)」と記載してください。

【令和7年度から新たに調査対象となった学科等又は令和6年度設置計画履行状況調査で付された指摘の場合】

「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「(7)」と記載してください。

- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的かつ明確に記入**してください。
その履行状況等の参考や根拠となる資料があれば、添付してください。
- ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
- ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<こども教育学部 こども教育学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当無し	該当無し

(注)・1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策(FD・SD活動含む)

① 実施体制

a 委員会の設置状況

本学では、SD(スタッフ・ディベロップメント)及びFD(ファカルティ・ディベロップメント)を積極的に推進するため、全学の組織として「SD・FD委員会」を設置し、教育研究活動等の適切かつ効果的な運営及び授業の内容及び方法の改善を行っている。また、SD・FD委員会の下部組織として、「SD推進部会」「FD推進部会」をそれぞれ設置し、年間計画に基づく具体的な活動を策定している。

b 委員会の開催状況(教員の参加状況含む)

令和6年度はSD・FD委員会を2回、SD推進部会を4回、FD推進部会を6回実施した。教員は各会議の委員・部会委員として参加している。各委員会・部会の構成員は以下のとおりである。

【SD・FD委員会】学長、副学長、学長補佐、学部長、短期大学部部長、学科長、学園事務局長、大学事務局長、学園事務局総務部長、事務部長、大学企画室長、大学企画室課長

【SD推進部会】学部長、短期大学部部長、学科長、大学事務局長、学園事務局総務部長、大学企画室長、大学企画室課長

【FD推進部会】学部長、短期大学部部長、学科長、学科選出の教員各1人、教務課長、大学企画室長、大学企画室課長

c 委員会の審議事項等

【SD・FD委員会】

- SD・FDの基本方針の策定に関すること。
- SD・FDの単年度事業計画及び中長期計画の策定に関すること。
- その他教職員の能力開発に関し必要なこと。

【SD推進部会】

- SDの実施計画の策定に関すること。
- 大学運営に必要な知識及び技能を身に付け、能力及び資質を向上させるための諸施策の企画及び実施に関すること。
- その他SDの推進に必要なこと。

【FD推進部会】

- FDの実施計画の策定に関すること。
- 授業の内容及び方法の改善を図るための諸施策の企画及び実施に関すること。
- その他FDの推進に必要なこと。

② 実施状況

a 実施内容

- (1) 授業改善アンケート
- (2) オープンクラス・ウィーク
- (3) 学生との意見交換会
- (4) FD研修会
- (5) SD研修会

b 実施方法

(1) FD推進部会で実施要項を定め全学で実施している。前期と後期の中間期及び期末に年4回、原則開講している全ての科目でアンケートを実施し、学生はオンライン上でアンケートの回答を行う。アンケートを行うことで、学生の学修の振り返りや教員の授業改善及び本学の教育活動全般の質の向上を図っている。

(2) FD推進部会で実施要項を定め、前期1回(2週間)、後期1回(2週間)計4週間の期間を設けて全学で実施している。原則全ての授業を公開し、教員が相互に授業を参観してレポートを提出している。教員相互の参観による学び合いにより授業運営における課題を明確にして改善に繋げることで、教授能力の向上を図っている。

(3) FD推進部会で実施要領を定め、11月～1月の期間を設けて全学で実施している。全ての学部・学科において、教育改善委員(学生の代表者)を2名もしくは3名選出し、学科教員と意見交換を行い、学生の代表者の意見を取り入れることにより教育内容の改善を図っている。

(4) FD推進部会で年間計画を策定し、学内及び学外で開催される研修会に参加している。学内で開催した研修については、アンケートを実施し、研修内容の改善に努めている。

(5) SD推進部会で年間計画を策定し、学内及び学外で開催される研修会に参加している。学内で開催した研修については、アンケートを実施し、研修内容の改善に努めている。

c 開催状況(教員の参加状況含む)

年4回原則開講している全ての科目でアンケートを実施し、学生はオンライン上でアンケートの回答を行う。全ての教員が参加している。

b 教員や学生への公開状況、方法等

授業改善アンケート結果を基に、中間期は各科目の担当教員にフィードバックしており、期末は教員が分析・今後の取組みを記載し学内専用サイトで学生に公開している。

(注)・「① a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

該当なし

b 委員会の開催状況(回数や開催日など)

該当なし

c 委員会の審議事項等

該当なし

d その他

該当なし

② 審議状況

a 審議した内容

該当なし

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

該当なし

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

(1) 教育課程の編成

令和6年度に実施予定の科目は全て開講した。令和7年度に開講する科目のうち、兼任・兼任教員の辞任等が生じた科目については、授業担当者及び開講時期の変更を行い、計画的に授業を行う予定である。

(2) 履修指導、卒業要件について

新学期オリエンテーションにおいて、学生便覧等を活用し、学部学科のカリキュラム構成、卒業要件、免許・資格に関する科目の履修方法及びLMSの利用方法等について説明を行った。また学部教員による個別面接を通じて学生一人ひとりの履修指導及び学生生活全般に関わる相談を継続して行っており、その結果、留年生は発生しなかった。

(3) 実習の具体的計画

1年次学生については、新学期オリエンテーションにおいて、2年次から始まる実習に向け、スケジュール、実習時間、日数や免許・資格を取得するための単位数の説明を行った。2年次学生については、「教育実習指導Ⅰ」において、『実習の手引き』をもとに保育者の専門的な指導方法や援助の在り方等について指導を行った。「教育実習Ⅰ」について、計画どおり尚綱大学附属こども園において2年後期に実習を実施した。

(4) 入学者選抜

令和7年度学生募集に当たり、高校生及び保護者等を対象とするオープンキャンパスを計6回開催した。オープンキャンパスでは、こども教育学部設置の趣旨、3つのポリシー、取得可能な免許・資格、奨学金制度の説明及び模擬授業等を行った。なお、令和7年度から実施する編入学選抜の受験希望者もいたため、併せて編入学選抜に関する説明を行った結果、6名が編入学生として入学した。

(5) 自己点検・評価

これまで、大学学則に基づく自己点検・評価及び外部評価を実施し、その結果を公表するとともに、教育研究活動の改善及び質の向上に取り組んできた。また、日本高等教育評価機構による令和6年度認証評価の受審を控え、学修者本位の教育の実現に向けた新たな内部質保証体制を構築してPDCAサイクルの実質化を図り、さらなる教育研究の質向上を進めた。日本高等教育評価機構による認証評価では、令和7年3月13日付けで同機構が定める大学評価基準に適合していると認定された。

(6) 情報の公表

大学・短期大学部ホームページにこども教育学部の特色、教育研究目的、学生が修得すべき知識・能力、取得可能な免許・資格等を掲載し、広く情報公表を行っている。また大学概要『尚綱大学・尚綱大学短期大学部キャンパスガイド』等を活用し、高校生、保護者及び学校関係者に対して広く周知を行う。また、こども教育学部における教員養成について教員養成の目的、計画、担当者等を大学ホームページにて公表している。

(7) 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

新任教員については、新任教員研修会を開催し、建学の精神、教育理念等に関する研修を行う。教員全体に対しては、「オープンクラス・ウィーク（授業参観）」、「授業改善アンケート」及び「FD研修会」を継続的に実施するとともに、教員の資質向上・能力開発を主眼とした学内・学外における組織的な研修を実施する。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・令和7年6月30日 公表

b 公表方法

・大学ホームページ上に公開予定（令和7年7月を予定）

③ 認証評価を受ける計画

・令和6年度に評価期間（日本高等教育評価機構）による大学機関別認証評価を受審し、令和7年3月13日付けで同機構が定める大学評価基準に適合していると認定された。

(注)・設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。
なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和7年度）

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

≪ aで「有」の場合≫

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]

≪ aで公表「無」の場合≫

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、
設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。

尚綱大学・尚綱大学短期大学部SD・FD委員会規程

(設置)

第1条 尚綱大学及び尚綱大学短期大学部（以下、「大学」という。）は、スタッフ・ディベロップメント（以下、「SD」という。）及びファカルティ・ディベロップメント（以下、「FD」という。）を積極的に推進するため、尚綱大学・尚綱大学短期大学部SD・FD委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(目的)

第2条 委員会は、SD及びFDに関する事項の審議を行ない、教育研究活動等の適切かつ効果的な運営及び授業の内容及び方法の改善を目的とする。

(構成)

第3条 委員会は、次に掲げる委員をもって構成する。

- (1) 学長
 - (2) 副学長
 - (3) 学長補佐
 - (4) 学部長
 - (5) 短期大学部部長
 - (6) 学科長
 - (7) 学園事務局長
 - (8) 大学事務局長
 - (9) 学園事務局総務部長
 - (10) 事務部長
 - (11) 大学企画室室長
 - (12) 大学企画室課長
 - (13) その他委員長が必要と認める者 若干人
- 2 前項第13号の委員の任期は、1年とし、再任を妨げない。
- 3 第1項第13号の委員に欠員が生じた場合、補欠の委員の任期は、前項の規定にかかわらず、前任者の残任期間とする。

(審議事項)

第4条 委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) SD・FDの基本方針の策定に関すること。
- (2) SD・FDの単年度事業計画及び中長期計画の策定に関すること。
- (3) その他教職員の能力開発に関し必要なこと。

(委員長)

第5条 委員会に、委員長を置き、学長をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長は、委員のうちから副委員長を委嘱する。副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代行する。

(議事)

第6条 委員会は委員の過半数が出席しなければ、議事を開き、議決することができない。

2 委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(部会)

第7条 委員会にSD推進部会及びFD推進部会を置く。

2 各部会に関する必要な事項は別に定める。

(意見の聴取)

第8条 委員会は、審議に資するため、必要に応じ、委員以外の者を出席させ、意見を聴くことができる。

(事務)

第9条 委員会の事務は、大学企画室で処理する。

(規程の改廃)

第10条 この規程の改廃は、委員会の議を経て学長の決裁により行うものとする。

附 則

1 この規程は、平成29年4月1日から施行する。

2 尚綱大学・尚綱大学短期大学部FD・評価委員会規程（平成18年10月27日制定）は廃止する。

附 則

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

尚綱大学・尚綱大学短期大学部SD・FD委員会SD推進部会規程

(趣旨)

第1条 尚綱大学・尚綱大学短期大学部SD・FD委員会規程第7条第2項の規定に基づき、尚綱大学・尚綱大学短期大学部SD推進部会（以下「部会」という。）に関し、必要な事項を定める。

(構成)

第2条 部会は、次に掲げる委員をもって構成する。

- (1) 学部長
- (2) 短期大学部部長
- (3) 学科長
- (4) 大学事務局長
- (5) 学園事務局総務部長
- (6) 事務部長
- (7) 大学企画室室長
- (8) 大学企画室課長
- (9) その他委員長が必要と認める者 若干人

2 前項第9号の委員の任期は、1年とし、再任を妨げない。

3 第1項第9号の委員に欠員が生じた場合、補欠の委員の任期は、前項の規定にかかわらず、前任者の残任期間とする。

(審議事項)

第3条 部会は、次に掲げる事項について協議し、実施する。

- (1) SDの実施計画の策定に関すること。
- (2) 大学運営に必要な知識及び技能を身に付け、能力及び資質を向上させるための諸施策の企画及び実施に関すること。
- (3) その他SDの推進に必要なこと。

(部会長)

第4条 部会に、部会長を置き、SD・FD委員会委員長が指名する。

2 部会長は、部会を招集し、その議長となる。

(議事)

第5条 部会は委員の過半数が出席しなければ、議事を開き、議決することができない。

2 部会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(意見の聴取)

第6条 部会は、審議に資するため必要に応じ、委員以外の者を出席させ、意見を聴くことができる。

(報告)

第7条 部会長は、部会の審議結果について、必要に応じてSD・FD委員会に報告するものとする。

(事務)

第8条 部会の事務は、大学企画室で処理する。

(規程の改廃)

第9条 この規程の改廃は、SD・FD委員会の議を経て学長の決裁により行うものとする。

附 則

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

尚綱大学・尚綱大学短期大学部SD・FD委員会FD推進部会規程

(趣旨)

第1条 尚綱大学・尚綱大学短期大学部SD・FD委員会規程第7条第2項の規定に基づき、尚綱大学・尚綱大学短期大学部FD推進部会（以下「部会」という。）に関し、必要な事項を定める。

(構成)

第2条 部会は、次に掲げる委員をもって構成する。

- (1) 学部長
- (2) 短期大学部部長
- (3) 学科長
- (4) 学科選出の教員 各1人
- (5) 教務課長
- (6) 大学企画室室長
- (7) 大学企画室課長
- (8) その他委員長が必要と認める者 若干人

2 前項第4号及び第8号の委員の任期は、1年とし、再任を妨げない。

3 第1項第4号及び第8号の委員に欠員が生じた場合、補欠の委員の任期は、前項の規定にかかわらず、前任者の残任期間とする。

(審議事項)

第3条 部会は、次に掲げる事項について協議し、実施する。

- (1) FDの実実施計画の策定に関すること。
- (2) 授業の内容及び方法の改善を図るための諸施策の企画及び実施に関すること。
- (3) その他FDの推進に必要なこと。

(部会長)

第4条 部会に、部会長を置き、SD・FD委員会委員長が指名する。

2 部会長は、部会を招集し、その議長となる。

(議事)

第5条 部会は委員の過半数が出席しなければ、議事を開き、議決することができない。

2 部会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(意見の聴取)

第6条 部会は、審議に資するため必要に応じ、委員以外の者を出席させ、意見を聴くことができる。

(報告)

第7条 部会長は、部会の審議結果について、必要に応じてSD・FD委員会に報告するものとする。

(事務)

第8条 部会の事務は、大学企画室で処理する。

(規程の改廃)

第9条 この規程の改廃は、SD・FD委員会の議を経て学長の決裁により行うものとする。

附 則

- 1 この規程は、平成29年4月1日から施行する。
- 2 尚綱大学・尚綱大学短期大学部FD推進部会規程（平成23年4月1日制定）は廃止する。

附 則

この規程は、平成30年4月1日から施行する。